

群馬県農業農村振興計画 2021-2025

未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける
農業・農村の確立

令和7年度 年度別計画



群馬県

目次

1. 群馬県農業農村振興計画概要	1
2. 令和7年度農政重点施策	2
3. 令和7年度農政部当初予算総額と主要事業一覧	
[令和7年度農政部当初予算総額]	5
[令和7年度農政部主要事業一覧]	6
4. 施策推進指標の動向	
[総合指標]	10
[基本施策]	10
[重点PJ]	13
[地域重点PJ]	14
5. 基本施策	16
6. 重点プロジェクト	37
7. 地域施策	
[中部地域]	50
[西部地域]	53
[吾妻地域]	57
[利根沼田地域]	61
[東部地域]	64

1. 群馬県農業農村振興計画概要

〔策定の趣旨〕

本県の農業が魅力ある産業として大きく成長し、農村がより一層活性化することで、将来にわたって県民生活に不可欠な農畜産物の安定供給が図られるとともに、農業・農村の魅力が向上するよう、「新・総合計画（ビジョン）」を踏まえ、新たな農業農村振興計画を策定しました。

〔位置づけ〕

本計画は、「新・総合計画（ビジョン）」の目指す「誰一人取り残さず、誰もが幸福を実感できる自立分散型社会の実現」に向けて、「新・総合計画（基本計画）」や国の新たな「食料・農業・農村基本計画」との整合性を保ちつつ、本県の農業分野における最上位計画として位置づけています。

〔計画期間〕

令和3年度を初年度とし令和7年度を目標年度とする5年間とする。

〔性格〕

10年先の将来を見据えて、計画期間における施策の方向性や具体的な目標を示す県農政推進の基本指針とします。また、農業者、消費者、関係団体、行政機関がそれぞれの果たすべき役割に応じて、主体的に取り組を進める上での協力・連携に向けた指針とします。

〔構成〕

（1）基本計画

本県の農業・農村振興における「基本理念」や計画期間における「基本目標」のほか、「基本目標」の達成に向けた具体的な取組として、「基本施策」、「重点プロジェクト」を示します。また、地域毎には、「地域別基本方向」、「地域重点プロジェクト」を示します。

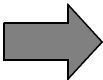
（2）年度別計画

基本計画に基づき、年度毎の具体的な取組内容を示します。各年度の成果及び進捗を検証することで、基本計画の着実な推進を図ります。

〔基本目標〕

「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」

〔総合指標〕

	(R1)		(R7)
農業産出額	2,361億円		2,600億円

2. 令和7年度農政重点施策

本県の農業と農村が持つ可能性を最大限引き出し、持続的に発展させるとともに、未来に向けて農業者が元気に躍動し、県民誰もが豊かさを享受できるよう、総合的な施策を展開します。

基本目標

「未来へ紡ぐ！ 豊かで成長し続ける農業・農村の確立」

本県の農業と農村が持つ可能性を最大限引き出し、持続的に発展させるとともに、未来に向けて農業者が元気に躍動し、県民誰もが豊かさを享受できるよう、総合的な施策を展開します。

重点 施策

環境負荷低減・資源循環型農業への転換・推進

～ 環境と調和しながら持続的に発展する循環経済の実現 ～

循環経済(サーキュラーエコノミー)※の実現に向けて、生産・販売・消費の拡大や、肥料・飼料の国産化に向けた取組を展開し、農業関係者や消費者の行動変容と相互連携を促すことで、環境負荷低減・資源循環型農業への転換をさらに進める。

※家畜ふん堆肥の利用など地域内の資源循環を促進し、環境負荷を低減しつつ生産コストの抑制と新たな付加価値の創出につなげることで、持続可能な農業を確立すること

持続的な農業に取り組む担い手の確保・育成、省力かつ低コストな技術開発

- 1 環境負荷低減の取組と高付加価値化を目指す「新たな経営感覚を持った担い手」の確保・育成
 - ・有機農業実践者の指導による農林大学校における有機農業教育の強化
 - ・環境負荷低減・資源循環型農業に必要な機械導入や施設整備に係る費用補助
- 2 高い生産性と環境負荷の低減を両立した生産体系への転換に向けた技術開発
 - ・需要の高い施設園芸品目における有機栽培技術の確立、全国シェアの獲得
 - ・スマート農業技術や再生可能エネルギーを活用した省力・省コストかつ環境負荷の小さい生産技術の開発・実証

肥料・飼料の国産化による資源循環型農業の促進

- 3 耕畜連携による堆肥・飼料の生産拡大及び利用促進
 - ・良質な堆肥の供給、耕畜間でのマッチングによる堆肥の広域流通の推進
 - ・生産組織による国産飼料作物の生産拡大、成分分析に基づく品質の向上

有機農産物への消費者理解の促進と販路拡大・新規需要開拓

- 4 有機農産物に対する消費者理解の促進
 - ・有機農業体験ツアーの開催や有機農産物を活用した学校給食の提供、児童向け教材を活用した子どもや消費者への理解促進
 - ・県内でのオーガニックマルシェの開催
 - ・オーガニックビレッジ(甘楽町、高山村、みなかみ町)の取組推進
- 5 有機農産物の販路拡大・新規需要開拓
 - ・都内自然食品専門店での「群馬県産有機農産物コーナー」の設置
 - ・都内飲食店とのマッチング
 - ・農産物粉末等の商品開発やプロモーションを通じた新規需要開拓
 - ・インバウンド等に向けた有機こんにゃく製品の販路開拓と消費拡大
 - ・県産有機農産物の共同集出荷体制の構築に向けた物流テスト



有機農業の担い手の育成



除草ロボットの実用化



オーガニックマルシェを通じた農業者と消費者の交流



農産物粉末等の新規需要開拓

群馬県農業農村振興計画の施策の柱に基づく主な施策 -----

未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】

■新たな担い手の確保・育成

- ・長期農業体験や技術習得研修等、就農支援の実施による担い手確保
- ・新規就農者の定着に向けたサポート体制の強化
- ・各補助事業の活用による「農業版企業誘致」の推進

■地域農業を支える力強い経営体の育成

- ・スタートアップ企業が有する革新的技術の実証と農業経営体とのマッチングによる社会実装の加速化

■農地利用の最適化と生産基盤の整備

- ・将来の農地利用を明確化した「地域計画」の実現に向けた伴走支援
- ・生産基盤整備事業を契機とした担い手への農地集積・集約化の推進
- ・農業水利施設の老朽度に応じた長寿命化対策による保全



キュウリ収穫ロボットの実証

次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】

■園芸産地等の競争力強化

- ・こんにゃくいも生産者の経営安定に向けた複合作物の導入促進
- ・所得向上を目指す意欲ある野菜花き生産者への機械導入や施設整備に係る費用補助
- ・やよいひめと新品種を核としたいちごの生産拡大
- ・群馬県育成品種を中心とした果樹の生産振興

■強靱な畜産経営の確立

- ・豚熱、鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病対策の強化
- ・ゲノミック評価を活用した優良繁殖雌牛の増頭・改良促進
- ・浅間家畜育成牧場の施設整備による次代の酪農を担う人材の育成



いちご高設栽培の技術開発

■持続的な水田農業の展開

- ・優良種子確保、売れる米づくり、ぐんま型「水田フル活用」の推進

豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】

■県産農畜産物の認知度向上・販路開拓推進

- ・県産農産物の栄養価や機能性成分に着目した消費者への訴求
- ・Youtubeやテレビ、SNS等の複数の媒体を活用したプロモーション
- ・群馬県農業統一ロゴマーク＆新認証制度の運用

■農畜産物等の輸出促進による販路拡大

- ・群馬県農畜産物等輸出促進戦略に基づく、生産から輸出に至る各行程での支援体制構築
- ・世界と戦える農業者の育成に向けた塾の開講



ぐんまグローバルファーマー育成塾

■地域資源活用の推進

- ・県産農畜産物や多様な地域資源の活用による価値創出

魅力あふれる農村の持続的な発展 【魅力度向上】

■多彩な地域特産物の生産振興

- ・養蚕の基盤となる蚕種や稚蚕飼育の生産体制整備・養蚕の担い手育成
- ・県産ブランドニジマスの増産に向けた水産試験場(川場養魚センター等)整備

■防災・減災対策の強化

- ・防災重点ため池の豪雨や地震に対する詳細調査の支援、改修・補強

■鳥獣被害防止対策の強化

- ・孺恋村などニホンジカの高密度生息地域での捕獲強化
- ・クマのゾーニング管理に向けた調査の実施



養蚕の担い手育成
(養蚕学校での実習)

ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出 【価値創出】

■「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の拡大・深化

- ・地域資源を生かした新たな農泊モデルの創出（農泊×オーガニック）
- ・農村地域と企業や大学の連携による、地域資源を活用したイベント開催や商品開発の促進
- ・農泊事業者や観光団体等との情報交換、プロモーション活動の実施

■農村協働力の深化による多面的機能の維持・発揮

- ・農業者や地域住民等による組織が実施する多面的機能の維持や地域資源の質的向上を図る協働活動への後押し



“農泊×オーガニック”の提案

3. 令和7年度農政部当初予算総額と主要事業一覧

[令和7年度農政部当初予算総額]

(単位：千円、%)

区分	R7年度 当初予算 [A]	R6年度 当初予算 [B]	比較増減	
			増減額 [A-B]	対前年比 [A/B]
一般会計	22,700,967	22,314,919	386,048	101.7%
一般事業	15,124,967	14,770,919	354,048	102.4%
公共事業	7,576,000	7,544,000	32,000	100.4%
単独公共事業	792,000	760,000	32,000	104.2%
補助公共事業	6,784,000	6,784,000	0	100.0%
農業改良資金特別会計	15,000	17,708	▲2,708	84.7%

[令和7年度農政部当初予算主要事業一覧]

(単位:千円)

事業名	担当課	区分	R6予算額 ()内はR5補正を含む額	R7予算額 ()内はR6補正を含む額	事業内容
I 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】					
農業者育成対策 (就農促進対策)	農業構造課	継続	36,478	31,626	・就農相談窓口の設置や、就農希望者への研修機会の提供、新たな担い手確保に向けた産地の受入体制整備等を通じて、新規就農者の確保・育成のための支援を総合的に実施する。
新規就農者育成総合対策	農業構造課	継続	335,323	308,270	・研修時や経営開始時の支援のための給付金や機械・施設等の導入のための補助金を交付し、新規就農者の確保・育成を図る。
農福連携推進	農業構造課	継続	5,085	5,294	・農作業モデル事業を行い、経済性の評価を行うとともに、作業方法等を示したデジタル手引きを作成する。 ・特別支援学校生徒の現場実習支援を行う。 ・障害者が安心して作業するための環境整備の支援を行う。
農業者等研修 (「ぐんま農業実践学校」推進)	農業構造課	継続	3,066	3,312	・農林大学の「ぐんま農業実践学校」において、定年帰農者やIターン・Uターンによる就農希望者等を対象に、農業の基礎的な知識・技術についての実践的な研修を行い円滑な就農を図る。
農業経営基盤強化対策 (農業経営力向上事業)	農業構造課	継続	60,000	60,000	・①認定新規就農者の就農初期の経営安定、②認定農業者等の意欲ある担い手の経営向上、③企業等の大規模な営農開始に必要な施設整備や機械導入に係る経費の一部を補助して、本県農業の将来を担う力強い経営体を育成する。
農業経営総合対策 (農業経営力向上支援)	農業構造課	継続	14,760	12,172	・県が就農希望者や経営面で課題を有する農業者に対して、就農、法人化・経営継承等に関する支援体制を整備し、就農サポート・経営サポートを行う取組を支援する。
農業経営総合対策 (次世代を育てる集落営農支援)	農業構造課	継続	55,000	55,000	・集落営農における活性化に向けたビジョンづくりや人材の確保、新たな作物の導入等の取組を支援する。
農業経営総合対策 (ぐんまAgri×NETSUGEN共創 (企業の経営体育成対策))	農業構造課	継続	29,080	29,080	・「ぐんまAgri×スタートアップ共創センター」を新たに設置し、県内農業の現状や課題を洗い出しの上、公設試験場と連携した共同研究や県内農業者・農業団体との協働による現地実証など、革新的技術やサービスの検証を図る。
農業近代化資金等融通対策	農業構造課	継続	113,139	122,594	・農業近代化資金融通法等に基づく長期かつ低利な施設資金等の円滑な融通を図る。 〈利子補給対象融資枠:農業近代化資金25億円、農業経営負担軽減支援資金0.5億円〉
総合農政利子負担軽減対策	農業構造課	継続	10,366	12,618	・農業近代化資金等の制度融資への上乗せ利子補給により、農業者等の負担軽減と資金の円滑な融通を図る。 〈利子補給対象融資枠:認定農業者等利子軽減36億円〉
農地利用促進対策 (担い手への農地集積・集約化)	農業構造課	継続	195,064	231,367	・力強い農業構造の確立に向けて、生産性の向上や経営の効率化を図るために、農地の中間的受け皿となる農地中間管理機構の体制整備・運営支援を行い、担い手への農地集積・集約化を図る。また、新たな担い手である企業等の農業参入を推進する。
農地利用促進対策 (農地利用最適化促進)	農業構造課	継続	6,999	5,889	遊休農地が多い中山間地域において、遊休農地の解消に向けた取組を加速化させる。また、新たな担い手として期待される企業や農業法人等が農地確保する際に必要となる大規模な遊休農地解消に向けた取組を促進する。
小規模農村整備	農村整備課	継続	632,900	640,000	・市町村や土地改良区等が実施する農業生産基盤整備、農村生活環境整備等、農村地域の多様な要望に対応したきめ細かな保全整備を支援する。
農山漁村地域整備	農村整備課	継続	1,170,785	1,010,893	・生産振興及び経営の改善・安定を図る農業生産基盤の整備や農業用施設の保全対策及び農地等への湛水被害を軽減・防止するための排水対策を実施する。
農業競争力強化基盤整備	農村整備課	継続	1,392,491 (2,283,491)	1,364,771 (2,373,211)	・区画整理などの農業生産基盤の総合的な整備を実施するとともに、農地中間管理事業を活用して担い手へ農地集積を促進する。 ・農業用水の安定供給を図るため、農業用施設の老朽度に応じた保全対策を実施する。

(単位:千円)

事業名	担当課	区分	R6予算額 ()内はR5補正を含む額	R7予算額 ()内はR6補正を含む額	事業内容
Ⅱ 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】					
野菜振興 (野菜花き生産力強化)	野菜花き課	一部新規	152,000	152,000	・野菜・花きに関する生産基盤を強化し、その持続的発展を促進するために、意欲ある生産者に対し、各種施設や農業機械について整備・導入費用の一部補助を行う。
野菜振興 (園芸産地強化支援)	野菜花き課	継続	200,046	200,000	・国庫事業を活用し、園芸産地の高収益化に向けた施設・機械整備、集出荷施設等の基幹施設整備、環境負荷軽減と持続的発展に向けたモデルの先進地区を創出するとともに、地域農業を支える老朽化した共同利用施設の再編集約・合理化の取組を後押しする。
こんにゃく価格低迷対策	蚕糸特産課 ぐんまブランド推進課	一部新規	0	54,849	・こんにゃくいもの需給安定と生産農家の経営安定を図るため、新たな複合作物等に必要な機械導入に対する一部経費を補助するとともに、こんにゃく消費拡大に向けたPR活動等を行う。
薬用作物生産基盤強化対策	蚕糸特産課	継続	5,400	5,400	・民間企業と連携した薬用作物の生産振興に向けて、経営規模の拡大や新規栽培の育成を進めるため、機械導入や施設整備に対する経費の一部を補助する。
果樹振興	蚕糸特産課	継続	4,869	4,753	・リンゴ、ブルーベリー、ウメなど群馬県産成品種を中心に、本県産果実の品質の高さやその魅力をPRし、果樹の生産振興と地域の活性化を図る。
花き振興	野菜花き課	継続	14,795	2,825	・群馬県花き振興計画(第7次)に基づき、重点9品目を中心に生産振興及び産地基盤の強化を図るとともに、県産花きの積極的なPR、花きの販売促進、消費拡大を図る。
フラワーパーク運営・改修	野菜花き課	継続	1,884,798 (3,696,798)	437,785	・集客力、収益性を高め、花の素晴らしさ、群馬県の良さを体感できる施設に一新するため、改修工事を実施する。 ・秋に予定しているリニューアルオープンに向けた植栽管理等の開園準備を指定管理者により行う。 ・リニューアルオープン記念式典の開催とプロモーション動画を制作する。
畜産物流通消費 (畜産物輸出コンソーシアム事業)	米麦畜産課	継続	0 (84,229)	71,793 (81,673)	・輸出産地としてリスト化された産地に対して、輸出先国へのプロモーション活動や輸出先国のニーズに則した動物福祉等への取組に対して支援を行い、本県畜産物の輸出拡大を図る。
肉牛振興	米麦畜産課	継続	22,358 (119,418)	22,224	・高能力牛の導入や地域内保留を推進するとともに、ゲノミック評価を活用し、消費者ニーズに応じた美味しい牛肉を生産するための和牛改良を推進する。 ・付加価値の高い和牛の安定生産のため、令和9年に開催される第13回全国和牛能力共進会の出品対策を強化し、県産牛肉のブランド力向上を推進する。
養鶏振興	米麦畜産課	継続	30,692	31,351	・上州地鶏の生産拡大を目的に、畜産試験場のヒナ供給体制を強化するための機械等を整備する。また、新規生産農場・飼育面積を増加するために、主に空き鶏舎を改修する整備に対して補助する。 ・県産鶏卵の消費拡大を推進する。
浅間牧場草地・施設整備	米麦畜産課	継続	242,000	220,000	・本県の酪農基盤の強化を図るため、浅間家畜育成牧場における効率的な飼養管理ができる集中管理牛舎や飼料生産基盤強化のための草地整備改良等を実施する。
農産振興 (経営所得安定対策等推進)	米麦畜産課	継続	82,369	76,610	・国の経営所得安定対策等を推進し、飼料用米等戦略作物の作付拡大を進め、水田の有効活用による食料自給率の向上や農業者所得の向上を図る。
農産振興 (畑作物の本作化対策)	米麦畜産課	継続	40,000	40,000	・国産需要が高まる麦・大豆等の畑作物の本作化に向け、水田における畑作物の導入・定着に向けた取組や、麦や大豆の増産に向けた農業機械の導入を補助する。
農産振興 (新基本計画実装・農業構造転換支援)	米麦畜産課	新規	0	500,000	・地域農業を支える老朽化したカントリーエレベーターやライスセンター等の共同利用施設の再編集約・合理化に必要な費用を補助し、土地利用型作物生産基盤の強化を図る。
農政部施設整備	農政課 農業構造政策課 米麦畜産課 野菜花き課 蚕糸特産課	一部新規	54,178 (56,178)	790,000 (1,849,209)	・次世代を見据えた生産振興やスマート農業の導入、家畜伝染病に対する対策を行うため、老朽化した施設を更新・改修します。
園芸作物研究	野菜花き課(農業技術センター)	継続	18,838	30,879	・本県の主要な施設野菜であるイチゴ、キュウリ、ナスなどについて、簡易な栽培技術の確立や多収・高品質栽培法の研究に取り組む。

(単位:千円)

事業名	担当課	区分	R6予算額 ()内はR5補正を含む額	R7予算額 ()内はR6補正を含む額	事業内容
農作物環境研究	野菜花き課(農業技術センター)	継続	15,293	15,500	・みどりの食料システム戦略に対応して、土壌管理技術の開発や総合的病害虫管理(IPM)技術の開発等を行う。
養蚕農家を支える技術の再構築と新しい展開	蚕糸技術センター	新規	0	13,592	・養蚕の基盤である蚕種及び稚蚕について、高品質なものを安定供給できるように技術の再構築を図ることにより、繭生産量を確保すると共に企業との連横を見据えた新たな蚕糸業の展開を目指す。
温水性魚類生産技術研究	蚕糸特産課(水産試験場)	継続	20,226	23,106	・人工アユ等の種苗生産供給、飼育技術開発、普及指導、優良形質魚の作出と系統保存等を行う。
冷水性魚類生産技術研究	蚕糸特産課(水産試験場)	継続	19,123	9,856	・マス類の新たな飼育技術、生産ロス抑制等の技術開発により、高付加価値化と生産効率化を図るとともに生産者に対して優良種苗の供給、技術指導を行う。 ・溪流魚の効果的な資源増殖技術を開発する。
野菜花き技術対策	野菜花き課	継続	22,977	10,752	野菜、花きの安定生産および生産性向上を図るとともに、より持続性の高い農法への転換に向けた技術対策、ならびに持続可能な農業の実現のための農業生産工程管理(GAP)の導入推進等に取り組む。
農業技術対策指導(ぐんま農業DX加速化)	野菜花き課	継続	5,700	5,816	・群馬県の農業DXを強力に推進するため、普及指導員と生産者のデータリテラシーを強化するとともに、生産者の経営課題について把握・分析することで、データに基づく指導を軸として、力強い経営体の育成を図る。
野菜価格安定(野菜生産出荷安定資金造成費補助)	野菜花き課	継続	200,046	200,000	・国、生産者等で資金をあらかじめ積み立て、青果物の価格低落時に生産者に補給金を交付し、生産者の経営安定と消費者への青果物の安定供給を図る。
家畜伝染病予防	農政課	一部新規	1,065,553	1,342,054	・特定家畜伝染病(アフリカ豚熱、豚熱、鳥インフルエンザ)の発生予防とまん延防止を図るための対策を総合的に実施する。 ・家畜伝染病予防法に基づき、各種監視伝染病の検査を実施し、発生予防・予察を行うとともにまん延防止を図る。

III 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】

県産農畜産物ブランド力強化対 (G-アナライズ & PR等)	ぐんまブランド推進課	一部新規	87,225	55,418	・県産農畜産物の魅力・価値を「ブランド」として消費者に認知してもらえるように、G-アナライズ&PRチームの取組により農畜産物の強みや特長を明確にする。 ・それらを活かした効果的なブランド戦略により、消費者に選ばれ続ける長期的な農畜産物ブランドの構築を目指す。
粉末プロジェクト推進	ぐんまブランド推進課	新規	0	23,412	・県立農林大学校で、有機農業の生産技術指導と併せて、粉末化を軸とした農産物の加工や販売の実習を行うことで、有機農業の担い手の所得向上と経営安定につなげます。 ・消費者の健康志向が高まる中、県産農畜産物の強みや特長を消費者に訴求することで、ブランドイメージの向上と高付加価値化に取り組みます。
農畜産物等輸出促進	ぐんまブランド推進課	一部新規	48,083	52,580	・輸出に取り組む生産者等の育成や海外マーケットに対応した農畜産物等の生産振興及び産地育成を図り、県産農畜産物等の輸出促進及び海外販路の開拓・拡大に取り組む。
地域資源活用推進	ぐんまブランド推進課	継続	24,911	73,161	・農山漁村における所得と雇用機会の確保を図るため、従来の6次産業化を発展させた「地域資源活用価値創出」を支援する。

IV 魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】

蚕糸振興 (蚕糸業継承対策・確氷製糸経営基盤強化・県産シルク需要拡大対策)	蚕糸特産課	継続	33,080	33,080	・蚕糸業の維持・継承のため、県産繭確保対策を実施するとともに多様な養蚕担い手の育成に取り組む。 ・確氷製糸の製糸業務の維持・強化のため、製糸機械・施設の改修・整備や繊維関係見本市出展に係る経費を補助する。 ・「ぐんまシルク」のPRを強化し、県産シルクの需要拡大を図る。
漁業振興	蚕糸特産課	継続	22,259	18,594	・カワウ、コクチバス等の駆除や稚魚放流等により、河川湖沼における水産資源の保護増殖を図る。 ・養殖業者の育成強化と生産物の消費拡大等に取り組むとともに、ギンヒカリを安定的に供給できる体制の構築を図る。
アユ生産振興	蚕糸特産課	新規	0	1,045	・アユ生産振興のための成分分析等及びイベント実施を行う。

(単位:千円)

事業名		担当課	区分	R6予算額 ()内はR5補正を含む額	R7予算額 ()内はR6補正を含む額	事業内容
	漁場環境対策	蚕糸特産課	継続	4,432	3,541	・河川の連続性を確保し、漁場の改善を図るため、魚道整備工事を行う。 ・イワナの保護水面を管理し、資源の維持と環境保全を図る。
	有機農業推進	農政課 農業政策課 米麦畜産課 野菜花き課 ぐんまブランド推進課	一部新規	157,200	176,179	・地域資源の循環及び農業の持続的発展のため、化学肥料・化学合成農薬に依存しない有機農業を推進する。 ・みどり認定者等へのサポート体制を構築するとともに、人材育成等の研修会を開催する。 ・堆肥舎整備や堆肥、緑肥、木質チップ、除草等の機械導入、堆肥の広域流通や散布に対して、補助金を交付する。 ・有機農業の土壌や経営実態について調査する。 ・有機農業での新規就農者へのサポート強化や農林大学の有機農業教育の充実に取り組み。 ・施設キュウリ・ナスの有機栽培技術開発や有機養蚕技術体系の確立と新規用途開発を行う。 ・オーガニックビレッジに対して交付金を交付する。 ・東京都内での有機農産物コーナー設置や物流テスト、飲食店等とのマッチング、オーガニックマルシェを開催する。 ・有機農業体験ツアーの開催や有機農産物を活用した学校給食の提供、有機農業教材を作成する。 ・有機コンニャクの生産拡大に向けた補助や販路開拓・消費拡大に向けたPR事業を実施する。
	農業環境保全 (農業環境保全)	農政課	継続	30,063	30,118	・農業の生産方向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」(国策定)を推進するため、市町村や農業団体等が行う取組に対して、交付金を交付する。
	農業環境保全 (環境保全型農業 直接支援対策)	農政課	継続	21,026	26,101	・化学肥料・化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い営農活動に対して、交付金を交付する。
	病虫害発生予察 (重要病虫害の特別防除等)	農政課	継続	209,806	209,806	・果樹等を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除対策を支援する。 ・植物防疫法で定められた重要病害虫が確認された場合に緊急防除等の対策を実施する。
	単独農村整備	農村整備課	継続	127,100	152,000	・農業用水の安定供給と下流域の防災・減災を図るため、小規模なため池の老朽対策や地農・豪雨対策を実施する。 ・地すべり防止区域を適正に保全するため、施設の維持管理補修と監視体制の整備を実施する。
	農村地域防災減災	農村整備課	継続	863,000	849,020	・防災重点ため池の豪雨・地震に対する詳細調査の支援と、その結果に基づく、改修・補強を実施する。 ・石綿管路等の撤去及び安全な材料による布設替えを実施する。
				(1,161,000)	(1,286,630)	
	鳥獣害防止	蚕糸特産課	継続	583,786	598,589	・市町村被害防止計画に基づく地域の主体的な取組に対する経費を補助するとともに、豚熱に係る野生イノシシ対策の強化を継続する。
	鳥獣被害対策支援	蚕糸特産課	継続	82,929	89,645	・捕獲目標に基づく計画的な推進や、効果的な捕獲器具の利用促進に取り組む。 ・地域ぐるみによる被害対策への指導・助言や、対策に取り組む人材の育成を行う。 ・ゾーニングによる人とクマの棲み分けに必要な取組を進める。
V ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出【価値創出】						
	グリーン・ツーリズム推進	農政課	継続	5,366	4,810	・地域の特徴を活かしたグリーン・ツーリズム、農泊を推進し、農村地域の活性化を図るため、人を呼び込む情報発信や広報宣伝による誘客促進、人材の発掘、育成のための研修会等による受入体制の整備、農泊に係る取組を推進する。
	中山間地域等直接支払	農政課	継続	145,864	146,599	・生産条件が不利な中山間地域の農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮を図るため、農業生産活動等の継続や集落の共同活動を支援することにより、耕作放棄地発生の防止や集落の維持を図り、中山間地域を下支えする。
	ふるさと保全・活性化対策	農政課	継続	18,231	19,178	・中山間地域の農業及び農業関連所得の向上を図るため、地域住民による創意工夫や地域の特色を活かした農村活性化の取組を推進する。
	多面的機能支払	農村整備課	継続	886,053	927,293	・農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るため、農業者等による組織が農地や水路等を維持・保全するために取り組む活動や、地域住民を含む組織が地域資源の質的向上を図るために取り組む活動を支援する。

[総合指標]

目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
農業産出額	億円	2,361	2,655	2,600	2,600

[基本施策]

■未来につながる担い手確保と経営基盤の強化

展開 方向	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
1	新規就農者数 (45歳未満)(令和3年度からの累計数)	人	170	761	850	850
	新規就農者数 (45歳以上65歳以下)(令和3年度からの累計数)	人	57	281	350	350
	企業の農業への参入件数	件	81	R7.12月頃 公表	111	111
	農福連携(共同受注窓口)利用農業者数	戸	16	R7.6月頃 公表	70	70
2	販売農業経営体数	千経営体	22.6	R7.12月頃 公表	16.5	16.5
	担い手数	経営体	6,247	R7.7月頃 公表	7,040	7,040
	県・国による認定農業者数(累計)	者	0	R7.6月頃 公表	700	700
	集落営農組織数	組織	134	R7.12月頃 公表	140	140
	家族経営協定締結数	戸	2,106	R7.9月頃 公表	2,238	2,238
	農業委員に占める女性率	%	15.7	R7.6月頃 公表	30.0	30.0
	農村女性起業数	件	300	R7.9月頃 公表	330	330
3	地域計画に基づき取組を実践している地区(集落)の割合	%	—	R7.4月頃 公表	100	80
	農用地区域内の1号遊休農地	ha	1,436	R7.12月頃 公表	656	656
	農用地区域内の農地(耕地)面積	ha	59,255	R7.12月頃 公表	58,000	58,000
	生産基盤整備事業を契機に担い手へ集積する農地面積	ha	332	R7.9月頃 公表	517	517
4	基幹農業水利施設の長寿命化対策工事を完成させる地区数	地区	17	26	29	29

■次世代につなぐ収益性の高い農業の展開

展開 方向	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
5	野菜産出額	億円	912	R8.1月頃 公表	1,100	1,100
	重点8品目作付面積	ha	10,070	R7.8月頃 公表	10,231	10,231
	重点8品目出荷量	t	433,230	R7..8月頃 公表	441,820	441,820
	指定野菜価格安定制度交付予約数量	t	244,265	247,375	243,535	250,000
	こんにゃく栽培面積10ha以上の農家数	戸	71	50	50	81
	「みやままさり」栽培面積	ha	1,519	1,479	1,479	2,192
	こんにゃく越冬栽培面積	ha	28	79	79	42
	観光果樹品目収穫量(りんご、ぶどう、なし)	t	13,740	R7.6月頃 公表	14,100	14,100
	果樹改植面積(累計)	ha	37.4	R7.6月頃 公表	62.4	62.4
	花き産出額	億円	51	R7.12月頃 公表	60	60
	きのこ産出額	億円	52	R7.7月頃 公表	56	56
6	乳用未經産牛頭数	頭	10,700	R7.8月頃 公表	10,500	10,500
	豚飼養頭数	頭	629,600	R7.8月頃 公表	634,000	634,000
	飼料自給率	%	37.2	R7.8月頃 公表	40.0	40
7	うるち玄米一等米比率	%	89.7	69.7	90.0	90
	「いなほっこり」等作付面積	ha	100	850	900	500
	ブランド米作付面積	ha	304	R7.8月頃 公表	450	450
	「さとのおら」の農産物検査数量割合	%	5.5	R7.5月頃 公表	10.0	10
	「ゆめかおり」のタンパク質含有率	%	11.2	11.4	13.0	13～14
8	ぐんま農業新技術・技術情報資料の件数	件	23	15	20以上	20以上
	施設園芸における環境制御技術導入農家数	戸	97	R7.4月頃 公表	160	160
	水田作におけるスマート農業機械導入農家数	戸	45	R7.4月頃 公表	110	80
9	GAPの取組組織数	組織	100	R7.4月頃 公表	140	140
	農作業死亡事故件数	件	5	R8.2月頃 公表	0	0

■豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大

展開方向	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
10	群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合	%	(R2) 31.5	38.2	33.6	33.6
	PR動画の年間総視聴回数	回	(R2)15,097	R7.4月頃公表	30,000	30,000
	農業生産関連事業年間総販売額(6次産業化総合調査)	百万円	61,800	R8.3月頃公表	70,554	70,554
11	青果物輸出金額	百万円	116	R7.4月頃公表	200	200
	輸出に取り組む産地・事業者数	産地・者	13	R7.4月頃公表	40	26
12	ぐんま地産地消優良店認定店舗数	店舗	69	R7.4月頃公表	100	100
	地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っている県民の割合	%	47.2	R6年度調査予定	60.0	60
13	リスクコミュニケーション事業年間参加者人数	人	(H30) 2,784	R7.5月頃公表	3,000以上	3,000以上
	動物用医薬品販売業者への立入検査割合	%	31.8	R7.8月頃公表	33以上	33以上
	講習会等での農薬適正使用指導回数	回	1,315 (過去5年平均)	R7.6月頃公表	1,300以上	1,300以上

■魅力あふれる農村の持続的な発展

展開方向	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
14	繭生産量	t	36	15	22	50
	養蚕経営体一戸当たり繭生産量	kg	353	274	400	500
	ハコスチ生産量	t	9	R7.4月頃公表	30	30
15	エコファーマー認定者数(累計)	人	5,728	R7.4月頃公表	6,920	6,920
	病虫害発生予察情報の提供回数(年間)	回	16 (うち予報12)	R7.4月頃公表	12以上	12以上
16	ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数	箇所	60	184	197	197
17	野生鳥獣による農作物被害額	千円	337,746	R7.8月頃公表	176,000	176,000
	野生鳥獣による農作物被害面積	ha	186	R7.8月頃公表	134	134

■ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出

展開方向	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
18	「農泊モデル地区」の支援数	地区	0	3	4	3
19	農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積	ha	17,553	19,504	20,000	20,000

重点プロジェクト

PJ	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
A	年間分析品目数	回/年	1	R7.4月頃 公表	4	4
	PR動画の年間総視聴回数【再掲】	回	(R2)15,097	R7.4月頃 公表	30,000	30,000
B	就農受入体制整備産地数(延べ)	産地	8	R7.4月頃 公表	20	20 (2産地/年)
	産地受入者数(就農者)(延べ)	人	4	R7.4月頃 公表	20	20 (4人/年)
C	農業法人数	法人	815	R7.7月頃 公表	1100	1,100
	農業経営相談所による重点指導農業者数(累計)	者	97	R7.4月頃 公表	307	307
	販売金額100万円以上の農業経営体の平均販売金額	千円	19,800	R7.12月頃 公表	23,200	23,200
D	耕地面積	ha	67,600	R7.12月頃 公表	62000	62,000
	担い手への農地集積率	%	38.8	R7.6月頃 公表	66	66
E	野生鳥獣による農作物被害額【再掲】	千円	337,746	R7.8月頃 公表	176,000	176,000
	地域ぐるみの被害対策の取組地域数(延べ)	地域	5	26	35	35 (5地域/年)
F	きゅうり出荷量 全国順位	t 位	52,900 2	R7.4月頃 公表	53,600 2	53,600 2
	夏秋なす出荷量 全国順位	t 位	16,600 1	R7.4月頃 公表	17,500 1	17,500 1
	ほうれんそう出荷量 全国順位	t 位	18,500 2	R7.8月頃 公表	20,400 1	20,400 1
	いちご出荷量	t	2,730	R7.8月頃 公表	3,120	3,120
G	高収益作物等の作付面積	ha	1,394	R7.4月頃 公表	1,700	1,700
	高度先端技術導入経営体数 (収量コンバイン、管理システム)	経営体	18	R7.4月頃 公表	50	30
H	新たな養蚕経営体数(H26からの累計)	経営体	23	35	38	38
	新規用途・遺伝子組換えカイコ等の飼育量	頭	300,000	111,000	150,000	1,500,000
I	群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合【再掲】	%	31.5	38.2	33.6	33.6
	PR動画の年間総視聴回数【再掲】	回	(R2)15,097	R7.4月頃 公表	30,000	30,000
J	青果物輸出金額【再掲】	百万円	116	R7.4月頃 公表	200	200
	輸出に取り組む産地・事業者数【再掲】	産地・者	13	R7.4月頃 公表	40	26
K	一戸当たり生乳生産量	t	443	R7.8月頃 公表	525	525
	枝肉重量(和牛去勢)	kg	508	R7.4月頃 公表	520	520
	飼料用トウモロコシ作付面積	ha	2,650	R7.4月頃 公表	2,800	2,800
	高糖分高消化性イネWCS作付面積	ha	53.8	R7.4月頃 公表	100	100
L	「農泊モデル地区」の支援数【再掲】	地区	0	3	4	3
	中山間地域における新規就農者数 (65歳以下、令和3年度からの累計数)	人	35	161	225	225
M	ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数【再掲】	箇所	60	184	197	197

■地域重点プロジェクト

中部

PJ	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
A	体質強化に取り組んだ集落営農法人数	法人	0	R7.3月頃 公表	10	10
	飼料作物(飼料イネ・飼料用麦・飼料用トウモロコシ)の 作業受託面積	ha	275	R7.3月頃 公表	310	310
B	きゅうり出荷量	t	12,700	R7.5月頃 公表	14,000	14,000
	なす出荷量	t	5,327	R7.5月頃 公表	6,000	6,000

西部

PJ	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
A	松義台地の担い手への農地集積	ha	85.6	119.7	120	106
	こんにゃくの越冬栽培面積	ha	27	70	70	39
B	果樹(なし、うめ等)改植面積	ha	4.1	9.6	10.3	10.3
	ナシハダニ天敵導入農家数	戸	11	27	35	35
C	10aあたり収量(2JA)	kg	4,285	R7.7月頃 公表	4,500	4,500
	IPM技術導入農家戸数(全域)	戸	57	R7.3月頃 公表	76	76

吾妻

PJ	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
A	受入協議会活動による新規就農者数(累計)	人	10	R7.6月頃 公表	21	21
	集落営農組織の栽培面積・作業受託面積	ha	51	53.1	56.6	56.6
B	吾妻西部の高原野菜の出荷量	万ケース	1,932	1,917	2,030	2,030
	吾妻西部の野生鳥獣による農作物被害額	千円	170,805	R7.8月頃 公表	95,000	95,000
C	1戸当たりの成牛頭数(24ヶ月齢以上)	頭	66	R7.7月頃 公表	70	70
	生乳体細胞数300千個/ml以下の農家割合	%	83	R7.7月頃 公表	90	90
	TMRセンター利用農家の成牛頭数	頭	576	R7.7月頃 公表	1,452	1,452

利根沼田

PJ	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
A	トマト販売出荷量(JA利根沼田)	千ケース	1,630	1,754	1,700	1,700
	レタス販売出荷量(JA利根沼田)	千ケース	2,376	2,660	2,500	2,500
B	牛の平地区における担い手への農地集積面積	ha	0	10.9	13.8	14.6
	牛の平地区における担い手数	人	1	7	8	7

東部

PJ	目標指標	単位	R1実績 基準年	R6実績	R7計画	R7目標 基本計画策定時
A	担い手への農地集積率	%	55.5	R7.5月頃 公表	66	66
	契約栽培面積	ha	72	99	111	111
	20a以上の区画整理整備済み耕地面積	ha	2936	R7.5月頃 公表	3,100	3,100
B	遊休農地解消面積	ha	2.9	R7.4月頃 公表	5.9	5.9
	新規作物導入数(累計)	作物 品目	6	8	9	9
	農産加工品創出数(累計)		4	12	12	7
	野生鳥獣による農作物被害額	千円	13,591	R7.8月頃 公表	8,430	8,430

5. 基本施策

未来につながる担い手確保と経営基盤の強化

展開方向1 ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保

<施策の取組内容>

1 新規就農に向けた支援の拡大

- ①オンライン面談等の導入により、就農相談窓口を強化するとともに、県内外における就農相談や情報提供の充実、インターンシップ（短期・長期農業体験）等の取組を推進します。
- ②農業経営・就農支援センターの就農支援体制を強化し、資源循環型農業や有機農業等での就農希望者への支援を拡充します。
- ③先進農業者における実践的な研修や研修機関である農業公社への支援を実施するとともに、就農前の研修実施や就農直後の経営確立に向けて資金面から支援します。
- ④制度資金や補助事業を活用した機械導入・施設整備等の初期投資の負担軽減、発展段階に応じた経営改善への支援等、就農後の早期自立・定着を支援します。
- ⑤農業青年クラブや青年農業士等の地域の若手農業者との交流を促し、研修会等の開催を通じて、新規就農者が相談できる同世代の仲間づくりを推進します。

2 人材育成のための農業教育の充実

- ①農林大学校社会人コースに「有機農業専攻」を新設します。
- ②農業高校や大学等と連携し、農業現場の視察研修やセミナー等を開催します。
- ③農林大学校において、有機農業や農業生産工程管理（GAP）などを含む実践的な教育や、スマート農業実践施設「ぐんまイノベーションファーム」を活用した人材育成を図ります。

3 農業版企業誘致の推進

- ①企業からの参入相談に対し、市町村等の関係機関との調整を図り、企業の農業参入に向けたきめ細かな対応を行います。
- ②農業参入した企業が安定的な営農を継続し、地域へ定着できるよう、課題の収集や解決に向けたフォローアップの充実、交流促進を図ります。

4 農業を支える人材の確保

- ①経営規模の拡大や法人化等に伴って農業労働力を必要とする経営体に対して、多様な雇用人材の確保に向けた情報発信の強化、労務管理能力の向上等に取り組みます。
- ②農福連携による農業経営体への障害者の雇用、農繁期の農作業委託、外国人材の円滑な受入等を推進します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
新規就農者数（45 歳未満）（令和3年度からの累計数）	人	170※	761	850	850
新規就農者数（45 歳以上 65 歳以下）（令和3年度からの累計数）	人	57※	281	350	350
企業の農業への参入件数	件	81	R7.12 月頃 公表	111	111
農福連携（共同受注窓口）利用農業者数	戸	16	R7.6 月頃 公表	70	70

※単年度実績

展開方向2 地域農業を支える力強い経営体の育成

＜施策の取組内容＞

1 力強い担い手の育成

- ①青年等の就農を促進するため、認定新規就農者への認定推進や認定農業者を育成・支援するとともに、集落営農組織の組織化・法人化を推進します。
- ②制度資金や補助事業を活用した機械導入・施設整備の支援により、認定農業者や集落営農組織等の経営基盤を強化します。
- ③地域農業を支える中小規模・家族経営に対して、家族経営協定の締結を推進するとともに、経営基盤の安定化や事業継承等の取組を支援します。

2 地域農業のリーダー育成と活動促進

- ①地域農業のリーダーとなる農業経営士等を認定するとともに、研修会等を通じて、地域農業のリーダーとしてのスキルアップと組織活動の拡大を図ります。

3 女性農業者の活躍促進

- ①研修会等を通じて女性農業者の経営力の向上を図るとともに、起業活動や認定農業者の共同申請等を支援し、積極的な経営参画を促進します。
- ②農業委員やJAの理事等への女性農業者の登用を推進します。
- ③若手女性農業者の学習や組織活動を促進し、次世代の人材育成を図ります。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
販売農業経営体数	千経営体	22.6	R7.12月頃 公表	16.5	16.5
担い手数	経営体	6,247	R7.7月頃 公表	7,040	7,040
県・国による認定農業者数(累計)	経営体	0	R7.6月頃 公表	700	700
集落営農組織数	組織	134	R7.12月頃 公表	140	140
家族経営協定締結数	戸	2,106	R7.9月頃 公表	2,238	2,238
農業委員に占める女性比率	%	15.7	R7.6月頃 公表	30.0	30.0
農村女性起業数	件	300	R7.9月頃 公表	330	330

展開方向3 農地利用の最適化と生産基盤の整備による農業の成長産業化

<施策の取組内容>

1 地域計画の実現に向けた伴走支援

- ①地域計画（目標地図）で定めた地域農業の将来像の実現に向けて、農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な市町村等の取組を伴走支援します。
- ②地域計画の実現に向けて、担い手への農地の集積・集約化が円滑に行われるように、農地中間管理機構の運営支援を行います。

2 遊休農地の発生抑制と再生利用支援

- ①農業委員会による利用状況調査や利用意向調査等を通じて、現況を正確に把握するとともに、今後の農地利用に係る話合いの促進や共同活動の支援を図ります。
- ②農地法に基づく遊休農地に関する措置を行い、所有者不明の遊休農地等の解消を図ります。
- ③農地中間管理機構、市町村、農業委員会、JA 及び土地改良区等の関係機関と連携し、遊休農地の再生利用活動を支援するとともに、担い手への貸付けを推進します。

3 農地制度による優良農地の確保

- ①農業振興地域制度や農地転用許可制度を適切に運用し、計画的かつ合理的な土地利用の推進と優良農地の確保を図ります。
- ②農地法関係事務について、市町村、農業委員会及び農業会議等との連携を強化し、迅速かつ適正な処理を進めます。

4 生産基盤整備の推進

- ①農地や農業水路等を整備する生産基盤整備事業を 14 地区において実施し、生産コストの低減と高収益作物の導入が可能な生産基盤を整えることにより、担い手への農地集積を推進します。
- ②畦抜き等の簡易な整備手法による区画拡大など、地域ニーズに即した営農条件の改善を図る整備を 2 地区において支援するとともに、ICT を活用した自動給水栓の普及に向けた取組を推進します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
地域計画に基づき取組を実践している地区（集落）の割合	%	—	R7.4 月頃 公表	100	80
農用地区域内の 1 号遊休農地	ha	1,436	R7.12 月頃 公表	656	656
農用地区域内の農地（耕地）面積	ha	59,255	R7.12 月頃 公表	58,000	58,000
生産基盤整備事業を契機に担い手へ集積する農地面積	ha	332	R7.9 月頃 公表	517	517

展開方向 4 農地・農業水利施設等の適切な保全管理の推進

<施策の取組内容>

1 農業水利施設の保全による農業用水の安定供給

- ①機能保全計画に基づいた適時・適切な保全対策を推進し、3地区の長寿命化対策工事を完成させ、安定した農業用水の確保を図ります。
- ②新たな長寿命化対策工事として、金丸地区の設計に着手します。

2 農地・農業用施設の保全

- ①地域コミュニティによる農地・農業用施設の適切な保全管理を推進するため、令和7年度から多面的機能支払交付金に取り組む14組織の立ち上げ等を支援します。

目標指標	単位	R1年 基準年度	R6年度	R7年度	R7年 目標年度
			実績	計画	
基幹農業水利施設の長寿命化対策工事を完成させる地区数	地区	17	26	29	29

次世代につなぐ収益性の高い農業の展開

展開方向5 ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化

＜施策の取組内容＞

1 担い手が育つ「儲かる野菜経営と活力ある野菜産地」の実現

- ①「野菜花き生産力強化」等の事業を活用し、集出荷施設等の基幹施設や環境制御技術等の導入による野菜経営の安定化を図ります。
- ②新たな需要を喚起するための販売チャンネルの多角化を進めます。
- ③県育成品種の特性を生かした生産振興と販売戦略を展開します。
- ④野菜経営の安定化を図るため、野菜価格安定制度等への加入促進を進めます。

2 世界で戦えるこんにゃく産地の育成

- ①こんにゃく需給安定対策事業を活用し、持続的なこんにゃくいも生産に向けて、新たな複合作物の導入や環境にやさしいこんにゃくいも生産を進めます。
- ②多収性で機械化適性の高い「みやままさり」作付や、越冬栽培技術の導入推進により、作業の効率化及び生産コスト低減を図り、農家経営の安定化を進めます。
- ③こんにゃくの消費拡大のため、若い世代等の消費者に向けたPRや、インバウンド等に向けたPRを実施します。

3 競争力ある産地の育成と生産基盤の強化

＜果樹＞

- ①ぐんまの果樹新時代対応推進事業を活用し、県産果実の消費拡大及び販売対策の取組を支援します。
- ②消費者ニーズに応じた優良品目、品種への改植及び新植、小規模園地整備の推進により、果樹産地の生産基盤強化を図ります。
- ③デジタルマップ「味覚あふれるぐんまのくだもの園」に、様々な果樹園情報等を掲載・更新し、観光果樹園PRの強化を図ります。
- ④県育成品種を中心とした果樹生産振興のため、PR活動を実施して、県産果樹のブランド化及び有利販売の実現を図ります。

＜花き＞

- ①「野菜花き生産力強化」等の事業を活用し、高品質生産に不可欠な高温対策等に係る施設整備や環境制御技術の導入により、花き生産の持続的発展を図ります。
- ②花きの新たな需要や消費構造の変化に対応するため、販売チャンネルの拡大に向けた商談会の開催や、付加価値の高い新品種育成など商品開発の取組を推進します。

＜薬用作物＞

- ①民間企業との連携による「トウキ」の生産拡大に向けて、機械導入や施設整備を支援し、経営規模拡大や新規栽培者の参入による所得向上や中山間地域の活性化を図ります。
- ②トウキ栽培技術の改善により、収量の増大を図ります。

＜菌床きのこ＞

- ①生産性や収益性を向上するための生産基盤整備を支援します
- ②県産原木を原材料とするおが粉の供給体制整備に取り組みます。
- ③県産きのこの消費拡大や地産地消を普及啓発する取組を支援します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
野菜産出額	億円	912	R8.1 月頃 公表	1,100	1,100※
野菜重点 8 品目作付面積	ha	10,070	R7.8 月頃 公表	10,231	10,231※
野菜重点 8 品目出荷量	t	433,230	R7.8 月頃 公表	441,820	441,820※
指定野菜価格安定制度交付予約 数量	t	244,265	247,375	243,535	250,000※
こんにゃく栽培面積 10ha 以上の 農家数	戸	71	50	50	81
「みやままさり」栽培面積	ha	1,51	1,479	1,479	2,192
こんにゃく越冬栽培面積	ha	28	79	79	42
観光果樹品目収穫量(りんご、ぶ どう、なし)	t	13,740	R7.6 月頃 公表	14,100	14,100
果樹改植面積(累計)	ha	37.4	R7.6 月頃 公表	62.4	62.4
花き産出額	億円	51	R7.12 月頃 公表	60	60
きのこ生産額	億円	52	R7.7 月頃 公表	56	56

※平成 30 年度実績値より設定

展開方向 6 国際競争に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立

＜施策の取組内容＞

1 家畜の伝染性疾患の発生予防とまん延防止の徹底

- ①各農場における飼養衛生管理基準の遵守状況を確認し、「飼養衛生管理支援システム」を活用するなどして継続的なフォローアップ指導を行い、衛生管理の改善による生産性の向上を図ります。
- ②家畜伝染病発生時に備えて、防疫演習の実施と防疫資材の備蓄に取り組みます。

2 生産基盤の強化と畜産物の安定供給

＜酪農＞

- ①性選別精液利用の推進や家畜育成牧場の活用を通じて、自家産後継牛を確保・育成する取組を推進し、本県生乳生産量を維持します。
- ②乳牛改良を推進するため、乳牛共進会の開催支援やゲノミック評価の活用推進を支援します。

＜肉牛＞

- ①県外からの優良繁殖雌牛導入やゲノミック評価の活用により優良受精卵を確保し、県内繁殖和牛農家へ提供することで、繁殖雌牛の資質向上を推進します。
- ②全国和牛能力共進会での上位入賞に向けた出品対策を進め、県内繁殖和牛の能力向上と県産牛肉のブランド力向上を推進します。

＜養豚＞

- ①県外からの優良純粋種豚の導入により生産した種豚や精液の供給を行うことにより、肉質改善や生産性の向上を推進します。
- ②肉豚の生産動向を調査し、それらを生産者に提供することにより、計画的な生産・出荷による経営安定を推進します。

＜養鶏＞

- ①機能性表示食品である「強み」を活かした「上州地鶏」のブランド化を図るため、全国にPR可能な物量確保に向け生産拡大に取り組みます。
- ②県産鶏卵の安全性等のPR活動を支援することにより、鶏卵の消費拡大を推進します。

＜飼料作物＞

- ①高栄養・高収量飼料作物の拡大に向けて、補助事業を活用した機械整備によるコントラクター等の組織強化や省力化技術の導入推進により、飼料コストの低減を図ります。
- ②国産飼料の生産拡大と利活用を図るため、飼料の成分分析による品質向上や広域流通体制の構築に取り組みます。

＜畜産経営＞

- ①研修会の実施や指導者の育成により、畜産クラスター事業の活用を推進します。
- ②畜産経営安定対策の周知を図り、制度への加入促進を図ります。
- ③畜産物輸出コンソーシアムの設立や運営、補助事業の活用を支援し、本県産畜産物の輸出拡大を図ります。
- ④技術者養成のための講習会の開催等により人材を育成し、効率的な家畜の改良増殖を進めます。

3 地域と調和した畜産経営の確立

- ①畜産農家における家畜排せつ物の管理状況を確認し、畜産環境研修会の開催やホームページを利用した情報提供等を通じて家畜排せつ物の適正管理を図り、地域と調和した畜産経営の確立を推進します。
- ②畜産農家による良質堆肥の安定生産と供給を促進するとともに効率的に耕畜連携を進め、畜産業の持続的発展と資源循環型農業の推進を図るための対策を総合的に実施します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
乳用未經産牛頭数	%	10,700	R7.8 月頃 公表	10,500	10,500
豚飼養頭数	頭	629,600	R7.8 月頃 公表	634,000	634,000
飼料自給率	%	37.2	R7.8 月頃 公表	40.0	40.0

展開方向7 地域の特性を生かした持続的な水田農業の展開

＜施策の取組内容＞

1 売れる米づくりの推進

- ①気象条件や栽培方法など、地域の特色を生かした高品質米の生産を支援します。
- ②本県二毛作体系に適した高温耐性品種や、良食味米、業務用米などの用途に応じた品種の検討と導入を行います。
- ③有機栽培や減農薬、減化学肥料栽培の取組について支援します。

2 水田における高収益作物等の作付拡大

- ①経営所得安定対策を効果的に活用し、需要に応じた米生産と麦類、大豆、新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS用稲等）を組み合わせた二毛作を推進します。
- ②産地交付金や畑地化促進事業を活用し、高収益作物等（園芸作物、飼料用トウモロコシ、加工用米、新市場開拓用米）の導入を支援します。
- ③本県に適した水稻・麦類、飼料作物等の品種の検討と導入に向けた取組を行うとともに、優良種子を確保するため、種子生産の担い手育成と生産体制の強化に努めます。
- ④耕畜連携による堆肥、わら、飼料作物の循環支援を行い、持続可能な水田活用を推進します。

3 ニーズに応じた高品質な麦生産

- ①実需者ニーズに応じた品種選定を行い、播種前契約の徹底により計画的な生産と安定供給を推進します。
- ②小麦のタンパク質含量向上に向けた追肥の実施と赤かび病防除の徹底を図り、高品質な麦生産を目指します。
- ③地産地消の取組推進など、新たな需要づくりを行います。

目標指標	単位	R1年 基準年度	R6年度	R7年度	R7年 目標年度
			実績	計画	
うるち玄米一等比率	%	89.7	69.7	90	90
「いなほっこり」等作付面積	ha	100	850	900	500
ブランド米作付面積	ha	304	R7.8月頃 公表	450	450
「さとのそら」の農産物検査数量割	%	5.5	R7.5月頃 公表	10	10
「ゆめかおり」のタンパク質含有率	%	11.2	11.4	13	13～14

展開方向 8 D Xを背景としたスマート農業等の新技術や新品種の研究開発と普及促進

＜施策の取組内容＞

1 地域に根ざした技術開発の推進

- ①AI を利用した画像判断による農作業支援技術の開発、高原野菜におけるドローンを活用した農薬の散布労力及び使用量削減技術を開発します。
- ②環境負荷低減を図るため、家畜ふん堆肥等を活用した無化学肥料栽培技術や、露地ナスの減化学肥料栽培技術を開発するとともに、嬬恋村キャベツ産地における可給態窒素マップに応じた可変施肥による適正施肥や土壌への炭素貯留によるCO₂削減効果の評価と実証に取り組みます。
- ③環境負荷低減を目指したカイコ及び蚕用人工飼料の開発、有機養蚕技術体系の確立と新規用途開発及び群馬オリジナル蚕品種による安定した繭生産を図ります。
- ④アユの新品種開発を効率的に行うための小規模飼育技術の開発、放流後の定着性に優れる濁りに強いアユ個体群の選抜育種、マス類の味上げ技術や低魚粉飼料を使用した養殖技術の研究に取り組みます。
- ⑤搾乳ロボットや哺乳ロボットなどの精密・省力機器を活用した家畜の飼養管理技術のスマート化や、ゲノミック評価や画像解析手法を用いた枝肉評価等の先端技術を活用した家畜改良等に取り組みます。

2 産地の将来を見据えたスマート農業の普及促進

- ①スマート農業技術に関する実演会・セミナーの開催等を通じて、専門知識を持った人材の育成を図るとともに、生産者の経営力強化を支援します。
- ②本県のは場条件や品目、経営規模に応じたスマート農業技術の普及を図るため、大学、農業団体、試験研究機関、普及組織、民間企業等と連携した技術実証に取り組みます。
- ③農業の環境負荷低減や作業の省力化に向けたスマート農業技術の実証に取り組むとともに、技術の導入を支援します。
- ④タブレット等を活用したリアルタイム指導やデータを活用した栽培・経営管理を推進することで、農業経営の安定と産地の強化を図ります。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
ぐんま農業新技術・技術情報資料の件数	件	23	15	20 以上	20 以上
施設園芸における環境制御技術導入農家数	戸	97	R7.4 月頃 公表	160	160
水田作におけるスマート農業機械導入農家数	戸	45	R7.4 月頃 公表	110	80

展開方向 9 農業経営の安定化に向けたリスクマネジメントの強化

＜施策の取組内容＞

1 農業生産工程管理（GAP）の導入推進

- ①産地等での GAP への理解促進を支援するとともに、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理分野の 5 分野からなる国際水準 GAP の導入を推進します。
- ②産地等での国際水準 GAP の取組の定着を図るとともに、GAP 認証取得の取組を支援します。
- ③国際水準 GAP の取組の普及拡大に向けて、GAP 基礎研修やリスク判断力養成研修等の開催により、普及指導員等の指導力強化を図ります。

2 農作業安全対策の推進

- ①農作業事故推進会議を開催し、農作業事故防止等に関する情報共有を図ります。
- ②農作業安全推進運動（春・秋）を展開して農作業事故防止を推進します。
- ③農作業安全研修会・講習会を開催して農作業安全を啓発します。

3 セーフティネット対策の強化による農業経営の安定

- ①群馬県農業保険推進協議会及び群馬県収入保険推進協議会の構成員として、策定された方策等に基づき、農業保険の普及・加入推進活動に取り組みます。
- ②農業者の集まる場等を利用して、農業経営上のリスクに対して農業者自らが備えることが重要であることを説明し、農業保険への加入を促進します。
- ③特に自然災害や価格低下だけでなく、幅広いリスクをカバーできる収入保険制度への加入を推進します。

4 家畜の伝染性疾病的発生予防とまん延防止対策の徹底（再掲）

- ①各農場における飼養衛生管理基準の遵守状況を確認し、継続的なフォローアップ指導を行い、衛生管理の改善による生産性の向上を支援します。
- ②家畜伝染病発生時に備えて、防疫演習の実施と防疫資材の備蓄を推進します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
GAP の取組組織数 (国際水準 GAP の取組組織数)	組織	100 (45)	R7.4 月頃 公表	140 (120)	140 (120)
農作業死亡事故件数	件	5	R8.2 月頃 公表	0	0

豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大

展開方向 10 県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大

<施策の取組内容>

1 新たな品種・品目のブランドに向けた取組

- ①G-アナライズ&PR チームで定めた「分析対象品種・品目選定の考え方」に基づき、県育成品種等を中心に計画的に分析を行います。分析で得られたデータは販売促進・PR・生産現場に活かします。
- ②分析で明らかになった強みや特長を活かし、「消費者に選ばれ続ける」長期的な農畜産物ブランドを構築するため、インフルエンサーや YouTuber による動画配信や SNS 発信など、複数媒体（メディアミックス）によるプロモーションを展開します。
- ③消費者の健康志向が高まる中、「群馬＝健康」が消費者に定着し、県全体のイメージ向上につながるような各種調査を実施します。
- ④生産現場で販売につながらない規格外品等農産物を活用した粉末化製品に着目し、機能性や栄養成分の分析・プロモーションを行い、その認知度向上を図ります。
- ⑤民間企業が開催する首都圏での料理教室において県産農畜産物の喫食機会を提供し、その美味しさを消費者に体験してもらうことで、県産農畜産物のファンを作ります。
- ⑥産直 EC サイトを活用し、生産者の販売力の向上及び販路拡大を図るとともに、消費者に対して県産農畜産物（有機農畜産物を含む）の魅力を PR します。

2 産地としての群馬県のイメージ向上

- ①低迷するこんにやく消費の拡大を図るため、県内飲食店等と連携したプロモーションを展開します。
- ②テレビや新聞等の在京メディアへの積極的な情報提供と取材誘致等によるパブリシティ活動と産地プロモーションに取り組みます。
- ③群馬県公式 YouTube チャンネル「tsulunus」による動画配信、県産農畜産物紹介サイト「ぐんまアグリネット」や「Instagram」などの SNS を活用した情報発信や PR を行います。

3 6次産業化活動の支援

- ①地域資源活用・地域連携サポートセンターを設置し、6次産業化等のように地域資源を活用した価値創出に取り組む農業者等の相談対応や、専門家の派遣による指導・助言を行います。
- ②地域資源を活用した価値創出に必要な知識等を習得するための研修会（講義及びインターンシップ）を開催します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合	%	31.5 (R2 年)	38.2	33.6	33.6
PR 動画の年間総視聴回数	回	15,097 (R2 年)	R7.4 月頃 公表	30,000	30,000
農業生産関連事業年間総販売額 (6次産業化総合調査)	百万円	61,800	R8.3 月頃 公表	70,554	70,554

展開方向 1 1 農畜産物等の輸出促進による販路拡大

<施策の取組内容>

1 「群馬県農畜産物等輸出促進戦略」に基づく生産から輸出までの事業展開

- ①「群馬県農畜産物等輸出促進戦略」に基づき、県産農畜産物等の認知度向上及び輸出品目・量・金額の拡大を図るため、生産から輸出まで中長期的な視点で事業を進めます。
- ②国の輸出拡大実行戦略に基づく輸出産地に対し、商談機会の提供や各種規制対応等、輸出事業計画目標達成に向けた支援を行います。
- ③「群馬県農畜産物等輸出促進戦略」の輸出重点先国・地域及び輸出重点品目について、マーケットインに基づく販路拡大対策の事業を行います。
- ④国内で開催される輸出に特化した食品見本市に出展し、販路拡大を図ります。

2 海外需要に応じた生産・環境の整備

- ①世界を相手に戦える農業経営者の育成を目的としたセミナーを開講し、輸出に取り組む生産者の掘り起こしを進めます。
- ②輸出に係る経費を補助するとともに、輸出に取り組む生産者・事業者の個別相談など、輸出促進支援員による伴走型支援を実施します。
- ③関係機関と連携し、輸出の阻害要因となっている輸出先国・地域の規制等に係る課題解決に向けた産地・事業者の取組を支援します。

目標指標	単位	R1 年 基準年	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
青果物輸出金額	百万円	116	R7.4 月頃 公表	200	200
輸出に取り組む産地・事業者数	産地・者	13	R7.4 月頃 公表	40	26

展開方向 1 2 食の地産地消の推進による地域内の経済循環の向上

<施策の取組内容>

1 地産地消の推進による県民の県産農畜産物への愛着醸成

- ①ぐんま地産地消推進店、優良店、協力企業・団体のさらなる認定とPRにより、消費者が県産農畜産物を容易に入手できる環境を整えます。
- ②学校給食への地場産農産物の利用拡大を進めるため、栄養教諭を対象とした研修会を開催します。

2 地域の郷土料理等の食文化への理解促進

- ①関係機関・団体等と連携し、本県の伝統的な食文化を次世代へ継承するための効果的な取組を行います。
- ②和食文化に関する広報、食育デジタル教材（ぐんまの食文化継承テキスト・食育紙芝居等）などの普及・活用により、伝統料理・郷土料理等の食文化を次世代に伝え、和食やぐんまの伝統的な食文化に関する関心と理解を深めます。
- ③若い世代食育推進協議会の活動を通じて、若い世代への効果的なアプローチ方法を検討し、食文化継承につながる実践活動を実施します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
ぐんま地産地消優良店認定店舗数	店舗	69	R7.4 月頃 公表	100	100
郷土料理や伝統料理等の地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っている県民の割合	%	47.2	R6 年度 調査予定	60	60

展開方向 1 3 安全確保策に基づく安全・安心な農畜産物の提供

<施策の取組内容>

1 食と農に対する県民の理解促進と安心の提供

- ①DX を活用して、食の安全に関してのリスクコミュニケーションを実施する。
- ②様々な機会・手法により各リスクコミュニケーション事業を開催する。
- ③情報紙と SNS により、食の安全情報を発信する。

2 農薬の適正使用と危害防止対策の推進

- ①農業者に対する講習会の開催、農薬管理指導士及び農薬適正使用推進員の養成・更新研修会の開催等により農薬の適正使用と使用履歴の記帳推進を図ります。
- ②農薬販売者、ゴルフ場等農薬使用者への立入検査を実施し、農薬の適正な販売、管理、使用について指導します。
- ③本県産の主要農産物について、出荷前における残留農薬の検証検査を実施します。

3 生産農場段階における畜産物の安全性の確保

- ①動物用医薬品等販売業者に対して 3 年に一度立入検査を実施し、動物用医薬品の適正な取扱いについて調査・監視指導を行い、家畜生産者への適切な動物用医薬品の販売を促します。

4 検査・確認体制の充実

- ①放射性物質検査について、実需者等からの要望がある品目を計画的に実施します。
- ②出荷前農産物の残留農薬検査について、本県産の主要農産物を対象に計画的に実施します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
リスクコミュニケーション事業 年間参加人数	人	2,784※	R7.5 月頃 公表	3,000 以上	3,000 以上
動物用医薬品販売業者への立入 検査割合	%	25.4	R7.8 月頃 公表	33.0 以上	33.0 以上
講習会等での農薬適正使用指導 回数	回	1,315 (過去 5 年平均)	R7.6 月頃 公表	1,300 以上	1,300 以上

※平成 30 年度実績値

魅力あふれる農村の持続的な発展

展開方向 1 4 歴史的・文化的背景を持つ多彩な地域特産物の生産振興

<施策の取組内容>

1 多彩な特産物の生産による活力と魅力ある地域づくり

《蚕糸》

- ①大日本蚕糸会、市町村等と連携した県産繭確保対策により繭生産量を確保します。
- ②「ぐんま養蚕学校」の強化充実を図り、個人や企業等の新規養蚕参入を支援します。
- ③「ぐんまシルク」のPR等を通じ、県産絹製品の需要拡大を図ります。

《水産》

- ①ギンヒカリの安定供給に向けて、養殖業者による冷凍実証を行い、効果を検証します。
- ②魚病のまん延防止やコクチバスの駆除等を行い、水産資源の維持・増大を図ります。

《しいたけ》

- ①伝統的かつ地域資源を有効活用した栽培方法であることや希少性をセールスポイントとして打ち出し、原木しいたけの付加価値の向上を図ります。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
繭生産量	t	36	15	22	50
養蚕経営体一戸当たり繭生産量	kg	353	274	400	500
ハコスチ生産量	t	9	R7.4 月頃 公表	30	30

展開方向 1 5 資源循環を目指した環境保全型農業の推進

<施策の取組内容>

1 環境負荷低減・資源循環型農業の推進

- ①環境負荷低減・資源循環型農業の推進のため、農業者の相談窓口を設置するとともに、ぐんまエコファーマーの育成や県特別栽培認証制度の普及、定着を図ります。
- ②有機農業の生産拡大に向け、生産者・指導者の育成に取り組みます。
- ③堆肥や緑肥、木質チップ等の有機物資源を活用した土づくりや、化学肥料・化学合成農薬の削減に資する施設整備費、機械導入費に対して、補助します。
- ④有機農業体験ツアーを開催し、東京都等の消費者に向け、群馬県産有機農産物の認知度を向上させていきます。
- ⑤学校給食への有機農産物の利用促進や、児童・生徒向けの有機農業副読本を活用した有機農業教育の推進により、未来を担う消費者の理解促進を図ります。
- ⑥農業用廃資材の減量化につながる代替資材として、生分解性マルチフィルムの利用を促進するため、農業関係団体と連携して情報収集を行い農業者への普及・啓発を図ります。
- ⑦県産有機農産物の販売促進のため、共同出荷による物流テスト及び常時販売を目指した販売コーナーを設置します。また、都内飲食店と生産者のマッチング、オーガニックマルシェを開催し、消費拡大と認知度向上を図ります。

2 病害虫の発生状況を考慮した効果的な防除の推進

- ①病害虫の発生調査を定期的を実施し、農業者等に対して病害虫発生予察情報等を提供することにより、適時・的確な病害虫防除を推進します。
- ②本県で果樹被害が拡大している外来種クビアカツヤカミキリの防除対策を支援します。
- ③土壌病害虫が問題となっている作物において、総合防除（IPM）の要素技術の開発と推進を図ります。

3 食品リサイクルの推進

- ①農林漁業者や製造・流通、外食等食品関連事業者などによる食品循環資源の再生利用等を促進するため、関係団体と連携して、食品リサイクルについての理解促進を図ります。
- ②国及び市町村等と連携し、食品リサイクルの推進に関する情報発信を行います。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
ぐんまエコファーマー認定者数 (累計)	人	5,728	R7.4 月頃 公表	6,920	6,920
病害虫発生予察情報の提供回数 (年間)	回	16 (うち予報 12)	R7.4 月頃 公表	12 以上	12 以上

展開方向 1 6 誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化

<施策の取組内容>

1 防災重点ため池の豪雨・地震対策

- ①防災重点ため池の緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるため、作成したハザードマップを地域住民へ適切に周知するよう市町村等を指導します。
- ②防災重点ため池 13 箇所の豪雨・地震における詳細調査を支援するとともに、安全性が低いと確認された 13 箇所の改修・補強対策や調査設計を実施します。
- ③ため池の適切な管理や劣化・変状が確認された防災重点ため池の監視など、管理体制等の強化に向けた検討を行います。

2 農村の防災・減災対策

- ①地すべりの前兆現象を早期に把握するため、地域住民と連携した監視を行うとともに、地すべり防止施設の維持管理補修や、地すべり防止対策のための対策工事を 1 地区で行います。
- ②農地等の湛水被害を防止し、農業経営の安定図るため、排水路や調整池の整備を 1 地区で行います。
- ③農業用水を安定的に供給するとともに、地域住民等の健康被害を未然に防止するため、石綿セメント管が使用されている農業用管水路の敷設替え工事を 5 地区で行います。また、新たに 1 地区で調査設計に着手します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数	箇所	60	184	197	197

展開方向 17 官民共創による野生鳥獣被害防止対策の強化

＜施策の取組内容＞

1 効果的な被害対策のための体制整備と人材育成

- ①県内におけるニホンジカ及びツキノワグマ等の生息状況を調査し、捕獲や被害防除対策を推進します。
- ②ニホンジカの被害が甚大な地域において、GPS首輪を装着して、季節移動ルート等を解明し、効果的な被害防除対策や効率的な捕獲活動につなげます。
- ③豚熱感染拡大防止のため、赤城南麓重点地区を設定し、地域と関係機関が連携してイノシシ対策に取り組みます。また、イノシシの移動・出没抑制のための河川内及び養豚場周辺の緩衝帯整備に取り組みます。
- ④農業者や地域住民、行政職員等が連携した被害対策を推進するため、地域リーダー育成研修、地域対策指導者育成研修、高度専門技術者育成研修等により人材育成を行います。
- ⑤市町村や民間企業と連携したジビエ（シカ）の利活用に向けた取組を実施します。
- ⑥日本獣医生命科学大学との共同研究により、安心・安全な農作業のための野生動物対策に取り組みます。

2 地域の一体的な取組の推進

- ①地域の被害対策を計画的かつ効果的に推進するため、市町村が作成した被害防止計画に基づく地域の主体的な取組を国交付金、県単事業の活用により総合的に支援します。
- ②地域住民による効果的な被害対策の実施など、地域ぐるみで取り組む「鳥獣害に強い集落づくり」を推進します。また、特に被害が甚大な地域を対象に重点的な対策支援に取り組みます。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
野生鳥獣による農作物被害額	千円	337,746	R7.8 月頃 公表	176,000	176,000
野生鳥獣による農作物被害面積	ha	186	R7.8 月頃 公表	134	134

ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出

展開方向 18 「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の拡大・深化

<施策の取組内容>

1 本県の固有の風土が培った地域資源の磨き上げ

- ①地域活性化の専門家である「群馬県地域興しマイスター」を中山間地域等に派遣し、地域の抱えている課題解決や地域の活性化を図ります。
- ②県内大学生による「やま・さと応援隊」の調査活動をとおして、中山間地域の課題解決や地域資源の磨き上げ、魅力発信の検討・提案を行い、中山間地域の活性化を図ります。

2 農村の魅力発信による関係人口の創出

- ①農泊事業者等にインタビュー（取材）を行い、それを農村地域の魅力を伝えるコンテンツ「農村地域からの声」として、情報発信します。
- ②都内の移住関連イベントにおいて、農村文化体験コーナーを出展し、地域の魅力発信とあわせて、誘客を見込んだPRを行い、県外に向けた情報発信を強化します。

3 特色ある農泊等の推進による関係人口の拡大・深化

- ①農泊やグリーン・ツーリズムを体験し、事業者や参加者が語り合うイベント「ぐんま農泊キャラバン」を県内農泊地域で開催し、農泊等をはじめとする都市農村交流の実践者のスキルアップと意欲・関心のある人材の発掘・育成を行います。
- ②新たな農泊モデル地区「農泊 in オーガニックビレッジ」の創出に向けて、農業事務所や市町村と連携して農泊モニターツアーを実施し、特色ある農泊等を推進します。

4 関係機関と連携した農村への移住・定住の促進

- ①移住・定住に向けたイベント等を通じて、コロナ禍による社会経済環境の変容等を背景に農村での暮らしを志向する都市住民等との交流を図ります。
- ②関係機関と連携して、農業への参入希望者の営農タイプやライフスタイルに応じたきめ細やかな支援により、地域への移住・定住を促進します。

5 多様な人材を巻き込むことによる地域コミュニティの活性化

- ①「半農半X」等の多様な営農タイプの移住者や「新・田園人※」を巻き込むことにより、地域コミュニティの活性化を図ります。
- ②農村の新たな魅力や価値の創出・磨き上げや関係人口の拡大・深化等の取組を継続して支援することにより、農村地域の活性化を図ります。

※新・田園人：農業には従事しないものの農村での新たな生活スタイルを求めて移住・定住した都市住民

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
「農泊モデル地区」の支援数	地区	0	3	4	3

展開方向 19 農村協働力（地域の絆）の深化による多面的機能の維持・発揮

＜施策の取組内容＞

1 協働活動による多面的機能の維持・発揮

- ①地域コミュニティによる農地・農業用施設の適切な保全管理を推進するため、令和 7 年度から多面的機能支払交付金に取り組む 14 組織の立ち上げ等を支援します。
- ②地域資源の質的向上を図るため、236 組織の協働活動を支援します。
- ③令和 7 年度に活動の終期を迎える 30 組織の「地域資源保全管理構想」の作成を支援します。

2 中山間地域の農業生産活動の支援

- ①農業者に対する中山間地域等直接支払交付金の周知に向けて、地域毎に農業事務所や市町村担当者を参集した会議の開催、より効果的な周知等を促進します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
農地・農業用施設の維持・保全が 図られた農地面積	ha	17,553	19,504	20,000	20,000

6. 重点プロジェクト

A 県産農畜産物の「強み」を生かした需要拡大と生産振興

<施策の取組方向>

知事をリーダーとする「G-アナライズ&PR チーム」が示す、「健康」や「おいしさ」をキーワードとした県産農畜産物の「強み」を最大限に生かすため、農政部一丸となって需要拡大と生産振興を図ります。

また、有機農業をはじめとした環境負荷低減・資源循環型農業を推進し、新たな「強み」の創出に努めます。

<施策の取組内容>

1 「強み」を生かしたプロモーション

- ①G-アナライズ&PR チームで定めた「分析対象品種・品目選定の考え方」に基づき、県育成新品種等を中心に計画的に分析を行います。
- ②分析で明らかになった強みや特長を活かし、「消費者に選ばれ続ける」長期的な農畜産物ブランドを構築するため、インフルエンサーや YouTuber による動画配信や SNS 発信など、複数媒体（メディアミックス）によるプロモーションを展開します。
- ③消費者の健康志向が高まる中、「群馬＝健康」が消費者に定着し、県全体のイメージ向上につながるような各種調査を実施します。
- ④生産現場で販売につながらない、規格外品等農産物を活用した粉末化製品に着目し、機能性や栄養成分の分析・プロモーションを行い、その認知度向上を図ります。
- ⑤有機農産物の生産拡大・販売促進・消費拡大に向けた各事業を実施し、県内及び首都圏におけるブランド力向上を図り、「オーガニック群馬」の全国的な地位確立を目指します。

2 「強み」を引き出す技術革新

- ①特色ある県育成オリジナル品種等の育成や県産農畜産物の特長を生かした加工技術・加工品の開発に取り組みます。
- ②IoT を利用した高度環境制御技術などの革新的な新技術を活用した生産性向上技術の開発に取り組みます。
- ③「強み」を高める栽培飼養管理技術や、環境への負荷が低い無化学肥料栽培技術の開発に取り組みます。

3 「強み」を高める営農支援

- ①品質向上や「強み」を高める栽培飼養管理技術等を普及します。
- ②「強み」をより効果的に宣伝するための物量確保に向け、「やよいひめ（イチゴ）」「上州地鶏」「ギンヒカリ」の生産拡大に取り組みます。
- ③有機農業・環境負荷低減技術の導入・生産拡大を図るとともに、新たな流通システムの実証に取り組みます。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
年間分析品目数	回/年	1	R7.4 月頃 公表	4	4
PR 動画の年間総視聴回数 【再掲】	回	15,097 (R2 年)	R7.4 月頃 公表	30,000	30,000

B 地域ぐるみによる新たな担い手の確保

<施策の取組方向>

市町村やJA、地域の農業者と連携し、生産・経営技術だけでなく、農地や販売先等を総合的にサポートする受入体制づくりを推進することにより、産地を支える新たな担い手の確保・育成を図ります。

<施策の取組内容>

1 関係者が一丸となった産地受入体制の整備

- ①産地への課題提起やアンケート等の意見集約による合意形成の推進を図ります。
- ②就農希望者向け事例集や経営モデル指標等、産地PRにつながる資料の作成を進めます。

2 産地受入体制の充実強化と情報発信

- ①短期間の農業体験の実施に向けた調整・支援を行います。
- ②就農相談フェアへの出展や先進事例調査等により産地受入活動強化につながる支援を行います。
- ③情報発信による産地PRや研修プログラムの策定支援、技術習得支援の体制整備を図ります。

3 新規参入者の定着支援

- ①就農時における生産条件の整った農地や住宅の確保、制度資金・補助事業等の活用などに対する相談対応・情報提供の支援を行います。
- ②関係機関の連携による早期経営確立に向けたフォローアップ支援を行います。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
就農受入体制整備産地数（延べ）	産地	8	R7.4 月頃 公表	20	20 (2 産地/年)
産地受入者数（就農者）（延べ）	人	4	R7.4 月頃 公表	20	20 (4 人/年)

C 経営感覚に優れた企業的経営体の育成

＜施策の取組方向＞

県内の認定農業者数は横ばいとなっていますが、認定農業者に占める農業法人の割合は増加しています。そこで、群馬県農業経営・就農支援センターの伴走支援、ぐんま Agri×スタートアップ共創センターによる農業系スタートアップ企業との協働等により、担い手の経営を発展させ、企業的経営体の育成を図ります。

＜施策の取組内容＞

1 企業的経営体に向けた発展支援

- ①群馬県農業経営・就農支援センター等の支援チームによる経営診断や経営相談を進めます。
- ②専門家等の相談会による経営発展や経営継承支援を行います。
- ③農業経営体等と新たな発想・技術を持つスタートアップ企業等と連携し、地域農業の課題解決に向けた共同研究、現地実証等の取り組みを進め、県内農業生産現場における革新的技術や新たなサービスの実装を促進します。

2 農業経営の法人化の推進

- ①認定農業者等への相談・指導体制の整備を進めます。
- ②集落営農組織等の経営体質強化と組織間連携の取組を推進します。
- ③農業経営の法人化に向けた支援を進めます。
- ④農業経営体等とスタートアップ企業など民間事業者とをマッチングすることで、双方の課題解決と育成を図ります。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
農業法人数	法人	815	R7.7 月頃 公表	1,100	1,100
農業経営・就農支援センターによる重点支援対象者数(累計)	経営体	97	R7.4 月頃 公表	307	307
販売金額 100 万円以上の農業経営体の平均販売金額	千円	19,800	R7.12 月頃 公表	23,200	23,200

D 各地域（集落）の話し合いに基づく農地の集積・集約化促進

＜施策の取組方向＞

農業経営基盤強化促進法の規定によって、各市町村が策定した「地域計画」に基づき、地域の状況に応じた農地の集積・集約化の促進を支援します。

＜施策の取組内容＞

1 地域計画の実現に向けた伴走支援

- ①地域計画（目標地図）で定めた地域農業の将来像の実現に向けて、農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な市町村等の取組を伴走支援します。
- ②農村整備事業と連携して、担い手へのより一層の農地集積・集約化を推進します。

2 農地中間管理機構の体制整備・運営支援

- ①農業経営基盤強化促進法の一部改正によって、市町村の利用権設定による農地貸借が廃止され、農地中間管理機構を介した貸借方法へ一本化されたことを受けて、農地の貸借手続きに関する業務にしっかりと対応できるよう、農地中間管理機構の体制整備を支援します。
- ②担い手への農地の集積・集約化に向けて、地域計画に基づく農地の貸借の手続きが円滑に行われるよう、農地中間管理機構の運営支援を行います。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
耕地面積	ha	67,600	R7.12月頃 公表	62,000	62,000
担い手への農地集積率	%	38.8	R7.6月頃 公表	66	66

E 効果を実感できる鳥獣被害対策の推進

＜施策の取組方向＞

捕獲体制の整備や技術向上による「捕る」対策をより一層強化するとともに、地域が主体となった地域ぐるみの「守る」対策、体系的な人材育成による「知る」対策を一体的かつ重点的に推進することで、野生鳥獣による農林業等への被害軽減を図ります。

＜施策の取組内容＞

1 被害減少効果のある捕獲の取組強化

- ①ニホンジカへのGPS首輪装着により季節移動ルートや被害の発生傾向等を解明し、効果的な防除対策と効率的な捕獲活動につなげます。
- ②指定管理鳥獣捕獲等事業などにより個体数調整を実施します。
- ③鳥獣被害対策実施隊等を対象に捕獲技術研修を実施し、担い手の育成を図ります。
- ④市町村の有害捕獲活動に対して、交付金等事業により支援します。また、豚熱対策として、赤城南麓重点地区を設定し、地域と関係機関が連携してイノシシの有害捕獲強化に取り組めます。
- ⑤養豚場周辺及び河川内の草木を伐採する緩衝帯整備を継続して実施し、野生イノシシの移動・出没抑制に取り組めます。

2 地域ぐるみによる被害対策の推進

- ①鳥獣害に強い集落づくり支援事業により地域主体の被害対策を推進します。
- ②体系的な人材育成研修を実施し、地域の被害対策を支える人材を育成します。
(地域リーダー育成研修、地域対策指導者育成研修、高度専門技術者育成研修)
- ③鳥獣被害対策功労者表彰を実施し、優良事例の周知により他地域等への波及を図ります。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
野生鳥獣による農作物被害額 【再掲】	千円	337,746	R7.8月頃 公表	186,000	176,000
地域ぐるみの被害対策の取組地区数（延べ）	地域	5	R7.3月頃 公表	30	35 (5地域/年)

F 日本をリードする「野菜王国・ぐんま」の実現

＜施策の取組方向＞

本県の野菜の重点品目である「きゅうり」「夏秋なす」、「ほうれんそう」において、産地強化を推進し、出荷量日本一を目指します。

県育成品種のいちご「やよいひめ」生産者の販売方法に応じた支援体制を構築するとともに、品種特性を生かした生産振興や販売力強化を図ります。

＜施策の取組内容＞

1 日本一に向けたきゅうり産地の育成

- ①収量増加・品質向上に向けた環境制御技術を確立します。
- ②共同選果場を活用した選果選別作業の省力化と規模拡大を推進します。

2 活気ある日本一の夏秋なす産地の強化

- ①新規就農者や新規導入を図る生産者に対する露地栽培の導入を推進します。
- ②組み合わせる品目を選定・普及します。

3 続け日本一！ほうれんそう産地の育成

- ①出荷調製作業の省力化に向けた機械化作業体系を推進します。
- ②パイプハウス等の施設整備推進による大規模経営体を育成します。
- ③標高差を生かした産地リレーによる周年出荷体制を強化します。

4 ぐんまのいちご「やよいひめ」の生産振興

- ①「やよいひめ」と県育成新品種の特性を生かしたいちごの生産振興と販売戦略を展開します。
- ②スマート農業の技術開発を進め、生産現場への導入を図ります。
- ③栽培技術の習得を促進するため、農林大学校のぐんま農業実践学校に「いちごコース」を設置します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R5 年度	R6 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
きゅうり出荷量	t	52,900	R7.4 月頃 公表	53,600	53,600※
全国順位	位		2	2	2
夏秋なす出荷量	t	16,600	R7.4 月頃 公表	17,500	17,500※
全国順位	位	1	1	1	1
ほうれんそう出荷量	t	18,500	R7.8 月頃 公表	20,400	20,400※
全国順位	位	2	1	1	1
いちご出荷量	t	2,730	R7.8 月頃 公表	3,120	3,120※

※平成 30 年度実績値より設定

G めんま型「水田フル活用」の推進

<施策の取組方向>

食料の安定供給と水田農業の担い手確保・育成に向けて、需要に応じた米生産や麦類との二毛作を基本に、新たな高収益作物を導入するめんま型「水田フル活用」を推進します。

また、生産性の向上を図るため、本県に適した品種の導入や優良種子の確保、ICT等の高度先端技術の普及、ほ場の区画整理、農業機械の導入や共同利用施設等の生産基盤強化に向けた支援を行います。併せて、耕畜連携による堆肥と飼料作物、わら利用の循環支援で持続的な水田活用を目指します。

<施策の取組内容>

1 水田における高収益作物等の作付拡大

- ①経営所得安定対策を効果的に活用し、需要に応じた米生産と麦類、大豆、新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS用稲等）を組み合わせた二毛作を推進します。
- ②産地交付金や畑地化促進事業を活用し、高収益作物等（園芸作物、飼料用トウモロコシ、加工用米、新市場開拓用米）の導入を支援します。
- ③本県に適した水稻・麦類、飼料作物等の品種の検討と導入に向けた取組を行うとともに、優良種子を確保するため、種子生産の担い手育成と生産体制の強化に努めます。
- ④堆肥等、有機質資源の活用により、小麦のタンパク質含量向上を図ります。

2 高度先端技術の導入による省力化・高品質生産

- ①ほ場管理システムや収量コンバイン、ドローンなど、ICT等の高度先端技術について、利用拡大に向けた農業者への情報提供や導入支援を行います。
- ②ほ場整備に併せて更なる生産性の向上を図るため、ICT等の高度先端技術の導入を推進します。
- ③生産体制の基盤強化を図るため、農業機械の導入や共同利用施設等の整備を推進します。

目標指標	単位	R1年 基準年度	R6年度	R7年度	R7年 目標年度
			実績	計画	
高収益作物等の作付面積	ha	1,394	R7.4月頃 公表	1700	1,700
高度先端技術導入経営体数 (収量コンバイン、管理システム)	経営体	18	R7.4月頃 公表	50	30

H 歴史的・文化的背景をもつ蚕糸業の再構築と新産業創出の推進

＜施策の取組方向＞

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の文化的価値を高め、本県伝統産業である蚕糸業の持続的発展に向けて、生産基盤の強化、多様な養蚕担い手の育成・定着を図ります。

県産シルクの需要拡大と遺伝子組換えカイコ等の新規用途開発に向けた取組を推進します。

＜施策の取組内容＞

1 県産繭・生糸の安定生産と県産シルクの需要拡大

- ①県産繭確保対策による繭代確保支援、稚蚕共同飼育所など繭生産基盤の維持強化を図ります。
- ②高品質生糸の製造、群馬オリジナル蚕品種「なつこ」を原料とした製品化など、県産繭・生糸の新たな需要を開拓します。
- ③全国シルクビジネス協議会との連携や「ぐんまシルク」のPR等により、県産シルクの需要拡大を図ります。

2 多様な養蚕担い手の確保

- ①養蚕参入希望者に対する養蚕技術等の習得、養蚕資材や桑園の確保等を支援します。
- ②ぐんま養蚕学校の研修内容を充実するとともに、情報発信を強化します。

3 新規用途・遺伝子組換えカイコの飼育と需要の拡大

- ①農研機構と連携して、遺伝子組換えカイコの稚蚕飼育量拡大に向けた飼育技術等の研究に取り組みます。
- ②食用などカイコの新規用途での需要拡大に向け、企業と連携して用途に適した技術体系の確立を図ります。
- ③低コスト周年全齢人工飼料育の実現に向けた飼育技術の研究を行います。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
新たな養蚕経営体数(H26 からの累計)	経営体	23	35	38	38
新規用途・遺伝子組換えカイコ等の飼育量	頭	300,000	111,000	150,000	1,500,000

I 消費者に選ばれる新たなブランド品目の育成

＜施策の取組方向＞

G-アナライズ&PR チームの取組と連携して、県産農畜産物を「食べる価値あり」「買う価値あり」と消費者に認めてもらうための様々な取組を進めます。

＜施策の取組内容＞

1 農畜産物を「食」として提案する機会の創出

- ①民間企業が開催する首都圏での料理教室において県産農畜産物の喫食機会を提供し、その美味しさを消費者に体験してもらうことで、県産農畜産物のファンを作ります。
- ②産直 EC サイトを活用し、生産者の販売力の向上及び販路拡大を図るとともに、消費者に対して県産農畜産物（有機農畜産物を含む）の魅力を PR します。

2 県産農畜産物 PR

- ①群馬県公式 YouTube チャンネル「tsulunos」による動画配信、県産農畜産物紹介サイト「ぐんまアグリネット」や「Instagram」などの SNS を活用した情報発信や PR を行います。
- ②テレビや新聞等の在京メディアへの積極的な情報提供と取材誘致等によるパブリシティ活動と産地プロモーションに取り組みます。
- ③県産農畜産物（有機農畜産物を含む）を年間で取り扱い、PR に意欲的な首都圏の飲食店・小売店を「県産農畜産物販売協力店」に指定し、県産食材の認知度向上を図ります。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度 実績	R7 年度 計画	R7 年 目標年度
群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合【再掲】	%	31.5 (R2 年)	38.2	33.6	33.6
PR 動画の年間視聴回数【再掲】	回	15,097 (R2 年)	R7.4 月頃 公表	30,000	30,000

J 海外需要に対応した県産青果物の輸出促進

<施策の取組方向>

アジア地域で需要の多い品目の更なる輸出拡大を推進するとともに、今後、輸出拡大が見込まれる国・地域の規格等に合わせた青果物の生産振興や産地育成を図ります。

<施策の取組内容>

1 アジア地域における県産青果物の販路拡大

- ①バイヤー招へいや海外での青果物 PR 販売の支援を行い、商談機会の創出及び輸出拡大を図ります。
- ②輸出業者等と連携し、青果物のテスト輸送・販売を実施し、県産青果物のシェア拡大及び販売定着を目指します。

2 海外需要に応じた青果物の生産振興・産地育成

- ①輸出に取り組む農業経営者の育成を目的としたセミナー開催や伴走型支援を行うとともに、農業事務所等と連携して生産支援策を提供し、輸出向け生産体制の確立に取り組めます。
- ②「群馬県農畜産物等輸出促進戦略」に基づき、有機農産物の輸出に向けた取組を進めます。

目標指標	単位	R1 年 基準年	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
青果物輸出金額【再掲】	百万円	116	R7.4 月頃 公表	200	200
輸出に取り組む産地・事業者数 【再掲】	産地・者	13	R7.4 月頃 公表	40	26

K 収益力に優れた畜産経営体の創出

<施策の取組方向>

収益性の高い畜産経営体を創出・育成するため、ICT 等の活用による飼養管理の効率化・高度化を図るとともに、高栄養・高収量飼料作物を中心とした飼料増産を推進します。

<施策の取組内容>

1 全国第4位の生乳生産量の維持

- ①減少を続ける酪農家に対応した酪農組織とするため酪農組織の再編を推進します。
- ②高能力な乳牛を効率的に増加させるため、ゲノミック評価の活用を推進します。
- ③県内で優良後継牛を増産するため浅間家畜育成牧場の整備を推進します。

2 黒毛和牛の改良と経営効率化による肉用牛経営の安定化

- ①スーパー黒毛和牛受精卵供給による和牛改良とゲノミック評価の活用による優良繁殖雌牛の増頭・改良促進を推進します。
- ②本県出身種雄牛の血統を県内に増やす取組を実施し、和牛産地づくりを推進します。
- ③全国和牛能力共進会出品対策を行い、県産牛肉のブランド力強化を推進します。

3 高栄養・高収量飼料作物による飼料コスト低減

- ①農地中間管理機構を活用した農用地の利用集積を進めるとともに、輪作体系の確立による効率的な飼料作物生産や、二毛作・二期作の推進による飼料増産を図ります。
- ②コントラクター組織の業務安定化と効率化を図るため、飼料用トウモロコシとイネ WCS の作期分散を計画し、作業受託面積の拡大に繋げるとともに、堆肥利用による低コスト生産を推進します。
- ③高糖分高消化性品種「つきすずか」、「つきはやか」の生産推進とともに、新品種「つきあやか」と「つきことか」の普及に向けた現地適応性の確認試験を実施します。
- ④飼料の成分分析による品質向上により、畜産農家が求める飼料生産を推進します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
一戸当たり生乳生産量	t	443	R7.8 月頃 公表	525	525
枝肉重量（和牛去勢）	kg	508	R7.4 月頃 公表	520	520
飼料用トウモロコシ作付面積	ha	2,650	R7.4 月頃 公表	2,800	2,800
高糖分高消化性イネ WCS 作付面積	ha	53.8	R7.4 月頃 公表	100	100

「快疎」な空間を求める関係人口の創出・拡大を契機とした中山間地域の活性化

＜施策の取組方向＞

首都圏に近いという本県の有利な立地条件と自然豊かな「田舎暮らし」への注目度の高さを中山間地域再生の新たなチャンスと捉え、地域に根ざした農業を主とした様々なスタイルの移住希望者を呼び込み、中山間地域の振興を図ります。

＜施策の取組内容＞

1 農村の魅力発信による関係人口の創出

- ①農泊事業者等にインタビュー（取材）を行い、それを農村地域の魅力を伝えるコンテンツ「農村地域からの声」として、情報発信します。
- ②都内の移住関連イベントにおいて、農村文化体験コーナーを出展し、県内外へのPR活動を行います。

2 農泊等の推進による関係人口の拡大・深化

- ① 農泊やグリーン・ツーリズムを体験し、事業者や参加者が語り合うイベント「ぐんま農泊キャラバン」を県内農泊地域で開催し、農泊等をはじめとする都市農村交流の実践者のスキルアップと意欲・関心のある人材の発掘・育成を行います。
- ②新たな農泊モデル地区「農泊 in オーガニックビレッジ」を創出に向けて、農業事務所や市町村と連携して農泊モニターツアーを実施し、特色ある農泊等を推進します。

3 多様な就農形態による移住・定住の促進

- ①就農相談フェア等を通じた就農希望者と接する機会の創出を図ります。
- ②営農タイプやライフスタイルに応じた就農支援を行います。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
「農泊モデル地区」の支援数 【再掲】	地区	0	3	4	3
中山間地域における新規就農者数（65 歳以下、令和 3 年度からの累計数）	人	35※	161	225	225

※単年度実績

M 誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化

＜施策の取組方向＞

防災重点ため池が決壊した場合においても人的被害を発生させないために、緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるソフト対策の推進と、豪雨や地震に対するため池の安全性の確認、安全性を確保するための改修・補強対策を実施するとともに、適切な管理・保全の強化を図ります。

＜施策の取組内容＞

1 防災重点ため池におけるハザードマップの作成・周知

- ①緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるため、ハザードマップを地域住民へ適切に周知するよう市町村等を指導します。
- ②作成されたハザードマップの浸水想定区域や避難所の位置などについて、適切に作成されているか点検するなど、市町村等に対してのフォローアップを行います。

2 防災重点ため池における豪雨・地震対策に係る詳細調査と改修・補強

- ①防災重点ため池 13 箇所の豪雨・地震における詳細調査を支援します。
- ②豪雨・地震において、安全性が低いと確認された 13 箇所の防災重点ため池の改修・補強対策や調査設計を実施します。
- ③過年度に実施した詳細調査で安全性が低いと判断された防災重点ため池について、調査結果をデータベース化し、計画的かつ集中的に改修・補強が実施できるよう優先順位等の検討を行います。

3 農業用ため池の管理強化

- ①「群馬県ため池保全整備連絡会」を開催し、ため池の適正な管理に向けた管理方法等の検討を行います。
- ②「ため池サポートセンターぐんま」への業務委託を発注し、点検監視のための現地パトロールや相談対応を行い、ため池管理者に対して適正な管理手法について指導を行います。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数【再掲】	箇所	60	184	197	197

7. 地域施策

中部地域

<施策の取組内容>

1 揺るぎない足腰の強い中部農業の確立

- ①地域農業を担う新たな担い手の確保・育成、足腰の強い経営体の育成に取り組むとともに、地域計画を実行し、農地整備と一体的に担い手への農地集積・集約化を進めるなど、意欲ある担い手が持てる力を発揮できる環境整備に取り組みます。
- ②土地利用型作物では、引き続き、大規模化、省力・低コスト化を推進し、園芸作物では環境制御技術や栄養診断等による高品質多収技術の高度化を図るなど、産地の競争力強化に取り組みます。
- ③地域の基幹である畜産では、畜産農家と地域の畜産関係者が連携・結集した畜産クラスターの構築を推進し、畜産経営の収益性を地域全体で向上させるための取組を支援するとともに、ICT等の活用による省力化や経営の効率化を推進します。
- ④水田農業では、経営基盤の強化を図るため、集落営農法人等による米麦の高品質安定生産と複合化による経営改善を支援します。さらに、コントラクターの育成強化による耕畜連携と水田の高度利用、スマート農業の導入等を推進します。

2 活き活きと躍動する農村の構築

- ①地域資源を活用した6次産業化や起業等、女性農業者の主体的な活動を支援するとともに、新規参入者や地域農業を担う次世代リーダーを育成するなど、意欲ある多様な担い手の活躍を推進します。
- ②担い手の経営発展や地域の多様なニーズに対応した生産基盤整備を推進するとともに、老朽化した農業水利施設の長寿命化、防災重点ため池の豪雨・耐震対策等を推進します。
- ③地域の「協働」による農地維持・資源向上活動や、地域集落が一体となった鳥獣被害対策等により、農村環境の適切な保全管理を推進します。
- ④農村地域の活性化を図るため、多様な地域資源を活用し、グリーン・ツーリズムや農泊等による都市と農村の交流や観光との連携を推進します。

3 地域農畜産物の需要拡大と安全・安心の確保

- ①特定家畜伝染病に適切に対応できるよう、市町村や畜産関係機関と連携した防疫体制を構築するとともに、畜産農家に対する飼養衛生管理基準の遵守徹底について継続的に指導し、効率的・効果的な慢性疾患対策を行うことで、安定的な畜産経営と畜産物供給を推進します。
- ②農畜産物の魅力向上や効果的な情報発信を支援することで、地域におけるブランド化に向けた取組を推進し、需要拡大を図ります。
- ③経営全般の質的向上と農薬危害や農作業事故等の経営リスク軽減を図るため、GAPの手法導入と普及・定着を推進します。

4 環境負荷低減・資源循環型農業の推進

- ①有機農業等の環境負荷低減・資源循環型農業を推進し、取り組む生産者に対して、技術・経営等について総合的に支援します。
- ②生産者と消費者等が一同に会する販売促進イベントなどを開催し、消費者や実需者への理解促進と需要拡大を図ります。

A 集落営農法人等の体質強化

＜施策の取組方向＞

中部地域では米麦二毛作を中心とした水田農業が集落営農法人等により行なわれていますが、構成員の高齢化や後継者不足に加え、混住化による新たな問題が生じるなど、集落営農法人が抱える課題は多様化しています。

そこで、地域農業の持続的な維持・発展に向けて、収益性の高い作物の導入や省力化等を推進し、集落営農法人等の運営の円滑化と経営強化の取組を総合的に支援します。

＜施策の取組内容＞

1 中長期ビジョンによる法人の体質強化

- ①将来を見据えた中長期ビジョン作成を支援します
- ②中長期ビジョンに基づく取組を支援します。

2 組織活動支援と法人間連携の推進

- ①集落営農等を行う組織の運営を支援します。
- ②労力補完や機械の共同利用等、法人間連携を推進します。
- ③法人間の課題をスムーズに調整するための地域協議会等を開催します。

3 スマート農業の導入による省力化の推進

- ①スマート農業技術研修会による省力技術導入を促進します。
- ②省力化技術普及のための実証ほ等を設置します。

4 農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化の推進

- ①地域計画を核とした農地の集積・集約化を推進します。
- ②利用権更新時の機構活用への移行促進と農地中間管理事業の活用を推進します。

5 収益性の高い作物導入による経営安定の推進

- ①飼料用イネ WCS（高糖分高消化性品種）、子実トウモロコシの導入を支援します。
- ②飼料作物の需給調整会議等により、流通を促進します。
- ③野菜導入による経営の多角化を推進します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
体質強化に取り組んだ集落営農法人数	法人	0	R7.3 月頃 公表	10	10
飼料作物（飼料イネ・飼料用麦・飼料用トウモロコシ）の作業受託面積	ha	275	R7.3 月頃 公表	310	310

B きゅうり・なす産地の強化

＜施策の取組方向＞

きゅうり、なすは、中部地域の主要な品目として産地が形成されています。県内でいち早く2カ所（JA 前橋市、JA 佐波伊勢崎）の選果施設が整備されるとともに、生産施設や新技術が積極的に導入されるなど、関係機関が連携して産地の競争力強化を支援してきました。

そこで、生産基盤を有効に活用し、更なる産地振興を図るため、担い手の確保・育成、生産性の向上及び収益力の強化を総合的に支援します。

＜施策の取組内容＞

1 関係機関の連携による持続的な産地振興

①地域の野菜振興会議を核とした持続的な産地振興施策を一体的に推進します。

2 新規栽培者の確保と早期の技術習得による定着支援

①新規参入者の就農支援体制強化や就農相談会、JA 広報誌等の各種媒体を活用した新規栽培者の掘り起こしを行います。

②新規栽培者を対象とした講習会や現地研修等によって基礎技術の習得を支援します。

3 生産性の向上を図る機械・施設の整備支援と新技術の確立・普及

①制度融資や補助事業を活用した計画的な機械・施設の導入を支援します。

②新技術導入等による収量・品質向上への取組を支援します。

4 選果施設の有効活用や共選共販体制の強化に向けた取組の推進

①選果施設の効率的な運用と体制強化を図る利用組合の主体的な活動を支援します。

②出荷規格の遵守等による品質の均一化に向けた取組を支援します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
きゅうり出荷量	t	12,700	R7.5 月頃 公表	14,000	14,000
なす出荷量	t	5,327	R7.5 月頃 公表	6,000	6,000

西部地域

<施策の取組内容>

1 地域農業を担う多様な担い手の確保・育成

- ①ニューノーマルに対応した多様な担い手を確保・育成するとともに、就農後の経営安定・定着を図ります。
- ②認定農業者等の農業技術や経営管理能力の向上を図り、地域農業の牽引役となる人材を育成します。
- ③農地中間管理事業等を活用した担い手への農地集積・集約化を推進します。
- ④農福連携等を通じて、労働力不足の解消を図ります。

2 地域の特徴を生かした収益性の高い農業

- ①ナシ、ウメ等の果樹産地において、改植推進、県育成品種の導入、新たな技術の導入・拡大により、生産性の向上を図ります。
- ②野菜やこんにゃく栽培における ICT 等を活用したスマート農業の普及を推進します。
- ③水田フル活用による飼料イネ、飼料用米、麦類の安定生産、売れる米づくり・麦づくりを推進します。

3 地域の特徴を生かした農村地域の活性化

- ①地域の歴史的・文化的背景を持つ多彩な農畜産物の生産や6次産業化を振興します。
- ②地域農畜産物の「強み」を生かした魅力発信や加工品等による高付加価値化を推進するとともに、国内外への販路拡大の取組を支援します。
- ③地域の農畜産物や農村文化、農村景観等の魅力を情報発信し、地域に継続的に関わる関係人口を増加させ、農村地域の活性化を図ります。
- ④多面的機能支払や中山間地等直接支払を活用した地域協働活動の推進により、遊休農地の解消や農業用水路の保全管理を支援します。

4 農業生産基盤の整備・保全・管理

- ①農業の生産基盤である農地を整備し、基幹的水利施設の保全対策を推進します。
- ②関係市町村と連携して、防災重点ため池、地すべり防止等の防災・減災対策を進めます。
- ③野生鳥獣被害対策は、官民共創による体制づくりを推進し、侵入防止柵の設置や有害鳥獣捕獲、指導者の育成等を支援します。

5 環境負荷低減農業の推進及び消費者視点の安全・安心な農畜産物の生産・提供

- ①環境と調和した持続可能な農業生産、信頼される産地づくりに向けて、有機農業をはじめとした環境負荷低減への取組を推進します。また、有機農業推進に取り組む市町村を支援します。
- ②堆肥を有効に活用した土づくりや化学肥料の適正施肥、農薬の安全かつ適正な使用により、安全・安心な農産物の生産を推進します。
- ③酪農では、輸入飼料に頼らない自給飼料等の生産拡大と利用促進を図ります。
- ④飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、市町村や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。

A こんなにやく栽培を中心とした松義台地等の農業振興

＜施策の取組方向＞

富岡市と安中市にまたがる松義台地周辺の農地は、基盤整備の実施により、こんなにやくを中心とした大規模で多様な畑作農業が展開されています。

本地域における持続性のある農業の維持・発展のためには、担い手への更なる農地集積の推進、土地利用型農業を下支えする経営面や生産面での営農支援が求められています。

そこで、基幹作物であるこんなにやくの栽培技術の向上、輪作体系の構築、担い手への農地集積・集約化、環境負荷低減技術やスマート農業の推進、複合経営品目の導入等、生産性向上や経営改善に向けた取組を総合的に支援します。

＜施策の取組内容＞

1 地域の話合いによる担い手への農地集積・集約化の推進

①地域計画に基づき、安中市・富岡市・土地改良区等と連携し、松義台地とその周辺地域の将来における農地の効率的・総合的な利用を見据えた農地集積・集約に向け調整を図ります。

②基盤整備完了後の松義台地における持続的な農業振興及び農地活用推進を図るため、農地情報等の管理について、安中市・富岡市・土地改良区等の関係機関と検討します。

2 こんなにやく生産組織等支援による中核的農業経営者の確保・育成

①管内こんなにやく研究会等の組織活動を支援するとともに、実証・展示ほの設置を通じてほ場越冬栽培等の環境負荷低減技術の導入を推進し、こんなにやく産地維持を図ります。

②若手生産者組織 TeamWest の活動支援等を中心に、栽培指導及び経営指導を重点的に行い、中核的農業経営者を確保するとともに、リーダー的農家を育成します。

3 持続可能なこんなにやく栽培技術の定着による栽培・経営支援

①持続可能なこんなにやく栽培を推進するため、環境への負荷を低減する栽培体系への転換サポート実証事業、土壌消毒環境調査や病害虫調査等を行い、病害虫発生要因の改善や緑肥輪作、堆肥活用等の推進により生産の安定化を図ります。

②こんなにやく経営安定を図るため、複合経営品目としてのネギ類の栽培導入を推進します。また、遊休農地対策として新たな土地利用型作物の選定および栽培支援を行います。

4 栽培に適した農業用排水路等の改善、整備の検討、提案

①松義西部地区で設置した給水施設について、病害防除用水や定植時の灌水等への利用啓発活動を実施し、営農の負担軽減を図ります。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
松義台地の担い手への農地集積	ha	85.6	119.7	120.0	106.0
こんなにやくの越冬栽培面積	ha	27.0	70.0	70.0	39.0

B 果樹産地（なし、うめ等）の活性化

<施策の取組方向>

西部地域は、ナシ、ウメ等を栽培する県内一の果樹産地ですが、生産者の高齢化や老木樹の増加、気候変動の影響による生産量の減少や果実品質の低下が問題になっています。

さらに、「クビアカツヤカミキリ」、新害虫「モモヒメヨコバイ」等による被害の拡大は、産地衰退の危機をもたらし、防除対策が急務となっています。

そこで、新たな担い手の確保・育成及び優良品種への改植（新植）の推進、難防除害虫への対策等、生産体制の強化を図るとともに、消費者ニーズにマッチしたナシ優良品種の導入推進、県育成ウメ品種「群馬U6号（商標名：ゆみまる）」（受粉樹）の加工品開発及びはるな果樹産地（ナシ）PR支援に取り組み、榛名地域を核とした西部地域の果樹産地活性化を図ります。

<施策の取組内容>

1 新たな担い手の確保・育成と栽培技術の向上支援

- ① 生産部会・関係機関と連携して、受入体制の整備と農業体験や就農相談会を実施し、新たな担い手の確保に取り組みます。

2 産地維持のための改植推進と遊休園地の発生抑制

- ①改植事業を活用し、高樹齢化している園の改植を進め、遊休化を抑えます。
- ②市町村、JAと連携して、クビアカツヤカミキリの発生状況調査や新たな防除対策手法実証ほの設置と防除講習会の開催により、被害拡大防止対策を進めます。

3 新品種や新技術の導入・拡大

- ①消費者ニーズへの対応と生産性の回復のため、ナシの県育成有望系統の現地栽培試験や試食会等を開催して、優良品種への更新を進めます。
- ②県育成ウメ品種「群馬U6号（商標名：ゆみまる）」の現地栽培試験を通して導入を進め、栽培技術を普及します。
- ③ナシのハダニ天敵導入について、継続して支援し、天敵導入農家を増やします。
- ④大産地特有の品目や地域の実情に応じたスマート農業技術等新技術の導入・推進を図り、産地の活性化に取り組みます。

4 果樹産地の情報発信等による販売力強化

- ①情報発信の講座や商品展示・交流会を開催し、SNSやホームページによる情報発信する農家を支援します。
- ②学生や県外からの移住者を通じて、ナシやウメの産地に関する情報を発信する仕組みを構築します。

目標指標	単位	R1年 基準年度	R6年度 実績	R7年度 計画	R7年 目標年度
果樹（なし、うめ等）改植面積	ha	4.1	9.6	10.3	10.3
ナシハダニ天敵導入農家数	戸	11	27	35	35

C いちご産地活性化

<施策の取組方向>

西部管内でのいちごの作付面積は約 21ha と県全体の約 4 割を占め、県育成品種「やよいひめ」の導入率は 9 割程度となっています。一方で、生産者の高齢化等に伴う生産量の減少、品種特性を生かした高品質安定生産が課題となっています。

近年、若い就農希望者も徐々に増えており、直売や観光農園等の取組も広がっています。

そこで、多様な経営を視野に入れた高品質安定生産への取組の支援を行い、産地の活性化を図ります。

<施策の取組内容>

1 いちご新規生産者の確保・育成

- ①生産者間の連携を強化することにより、担い手の確保、育成を始めとした産地の発展に関する取り組みを関係機関と連携し推進します。
- ②意欲ある生産者向けの技術研修を開催し、育苗管理技術の向上を図っていきます。

2 ICT 等の技術導入による生産性・品質向上

- ①ICT を活用した環境制御技術等の導入と適正管理の実践により、単位あたり収量と品質の向上を図ります。
- ②タブレット端末を利用した若手生産者勉強会を開催し、ICT の有効活用を推進します。
- ③若手生産者向け LINE グループの作成と情報の共有化を図ります。

3 IPM 技術導入による環境に優しい農業への取組

- ①放飼天敵の利用等による IPM 技術を導入し、薬剤抵抗性が問題となる微小害虫の防除を効果的に行い化学農薬の低減を図ります。

4 GAP 導入による経営改善

- ①第三者認証による GAP 取得を推進します。
- ②GAP 手法による栽培管理技術の改善を推進し、生産管理作業の効率化、安全安心な農産物生産、消費者から信頼されるいちご産地の強化を図ります。
- ③輸出に関心のある生産者に対し関係部署と連携し支援を行います。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
いちご 10 a あたり収量（2 JA）	kg	4,285	R7.7 月頃 公表	4,500	4,500
IPM 技術導入農家戸数（全域）	戸	57	R7.3 月頃 公表	76	76

＜施策の取組内容＞

1 地域農業を支える多様な担い手確保と経営基盤の強化

- ①新規就農者の受入体制を強化し、定着と経営者意識の醸成を図るとともに、栽培技術の習得を支援します。
- ②農業者組織の育成や経営基盤強化に向けた取組を支援するとともに、農作業受委託を促進します。
- ③地域リーダー、農業青年、女性農業者の組織活動を支援するとともに、男女共同参画を推進します。
- ④農地中間管理事業の活用や生産基盤の整備を契機とした担い手への農地集積・集約化を推進し、地域計画（人・農地プラン）策定に向けた取組を支援します。

2 地域の特性を生かした農産物の産地強化と競争力のある農業生産

- ①キャベツ、はくさい等の高原野菜、夏秋なす、ズッキーニ、さやいんげん、りんご、キク類、こんにゃく等の地域特産物の安定生産と高品質化に向けた取組を支援し、産地強化を図ります。
- ②おいしい米づくりや品質向上に向けた取組を支援します。
- ③環境負荷低減・資源循環型農業を推進するとともに、表土流亡軽減対策、GAP 導入を推進します。
- ④農産物直売所や観光農園の運営、地域特産物を活用した農産物加工品の開発や販売等を支援するとともに、消費者に対する PR 活動を行います。
- ⑤ハッ場ダム周辺地域の観光資源活用による農業と地域の活性化に向けた取組を支援します。

3 競争力に優れた収益性の高い畜産経営の確立と家畜伝染病の発生予防

- ①畜産経営の安定化に向けて、生産性の高い飼養管理と飼料自給率の向上を図ります。
- ②畜産環境対策に取り組み、地域と調和した畜産経営を支援します。
- ③飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、町村や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。

4 魅力ある農村の維持・発展

- ①多面的機能の発揮のため、地域の共同活動による農地・水路等の維持・保全を支援します。
- ②農地や農業水利施設等の適切な保全管理を進め、生産基盤の保全・整備を図ります。
- ③遊休農地解消関連事業等を活用し、地域の実情に応じた遊休農地の解消と有効活用に向けた取組を支援します。
- ④野生鳥獣による農作物への被害軽減のため、官民共創コミュニティによる「捕る」「守る」「知る」対策を総合的に推進し、地域が一体となった取組を支援します。

A あがつまの農業を元気にする担い手確保と地域農業の構築

＜施策の取組方向＞

中山間地域である中之条町、東吾妻町、高山村では、農業者の高齢化や後継者不足が進み、担い手の確保・育成が喫緊の課題となっていることから、町村や関係機関と連携して、新規就農者の受入体制を整備・強化します。また、集落営農組織等に対する活動支援や、農業水利施設等の保全対策に取り組み、持続性のある地域農業の構築を図ります。

＜施策の取組内容＞

1 新規就農者の育成支援、受入体制の整備支援

- ①新規に設立した受入組織の支援とともに、既存組織の充実強化を図ります。
- ②就農フェア等への出展や産地見学会を開催し、新規就農者の確保を図ります。
- ③新規就農者に対し、研修会や巡回指導を通じて技術習得を図り、定着に向けた支援を行います。

2 集落営農組織及び集落における中心経営体の活動強化支援

- ①管内4つの集落営農組織（「（有）たけやま」、「農事組合法人さくや姫」、「耕人」、「赤岩そば生産組合」）への栽培指導と運営を支援します。
- ②作業受託組織等の活動を支援するとともに、機械装備を充実させるための取組を支援します。

3 農業水利施設等の計画的な保全対策推進

- ①中之条町美野原用水の水路を補修します。
- ②嬭恋村干俣地区の防除用水施設を更新します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
受入協議会活動による新規就農者数（累計）	人	10	R7.6 月頃 公表	21	21
集落営農組織の栽培面積・作業受託面積	ha	51.0	53.1	56.6	56.6

B 全国に誇れる高原野菜の産地力強化

＜施策の取組方向＞

キャベツ、はくさい、レタス等の高原野菜の生産・出荷機能の強化やニューノーマルに対応した労働力の確保を図るとともに、表土流亡を軽減する農地保全や環境保全型農業の取組を支援します。また、シカ等による農作物への被害軽減に向けて、官民共創による野生鳥獣被害防止対策に取り組めます。

＜施策の取組内容＞

1 高原野菜の緑肥を組み合わせた輪作体系による生産安定

- ①地力維持のため、キャベツ収穫後の圃場に緑肥を栽培し、キャベツの安定生産を図ります。技術推進のため関係機関と連携し、広報誌や講習会等で啓発を強化します（技術対策資料として表土流亡軽減対策の手引きを活用します）。

2 苗移植機等導入支援による労働力の低減と規模拡大

- ①「野菜王国・ぐんま」総合対策により、機械導入を支援します。
②導入した苗移植機の効果を発揮するため、セル苗の安定生産に向けた支援を行います。

3 緑肥やグリーンベルト、沈砂池による傾斜地ほ場の表土流亡の軽減

- ①表土流亡が発生している圃場での流亡軽減対策として、キャベツ収穫後の緑肥播種とグリーンベルトの設置を関係機関と連携し推進します。
②表土が流亡した農地の地力維持・回復の取組みを目的に、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」により得られた知見に基づき、施肥マップや可変施肥技術を利用した DX 化によるキャベツ等の生産性維持と環境負荷軽減、省力化を推進します。

4 野生鳥獣による農作物被害額の軽減支援

- ①野生鳥獣による農作物被害額軽減のため、侵入防止柵の設置を支援します。
②農家や関係機関と連携した集落ぐるみの野生鳥獣被害対策を推進します。
③関係機関と連携しながら、被害状況等を分析し、効果的、効率的な対策を支援します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
吾妻西部の高原野菜の出荷量	万ケース	1,932	1,917	2,030	2,030
吾妻西部の野生鳥獣による農作物被害額	千円	170,805	R7.8 月頃 公表	95,000	95,000※

※平成 30 年度実績値により選定

C 北軽井沢応桑地区における収益性の高い酪農経営の確立

＜施策の取組方向＞

飼料価格の高騰等を背景に、飼養環境の改善や飼養数の増頭が容易にできない状況である。このため、自給飼料増産や飼料調製等の見直しによる生産コスト低減の取組の推進により、規模拡大、酪農経営の安定化を図ります。

＜施策の取組内容＞

1 育成牧場を活用した後継牛確保による増頭

- ①浅間家畜育成牧場の入退牧を支援します。
- ②北海道預託牛の入退牧を支援します。
- ③吾妻郡牛共進会の開催、県畜産共進会（乳牛の部）への参加を支援します。

2 飼養管理方法の見直しによる高品質生乳生産の支援

- ①生乳検査成績に基づき戸別に巡回を行い、乳質の改善を図ります。
- ②JA 牛乳だより、家保だより等広報誌を活用した高品質生乳生産への意識啓発に努めます。
- ③生産性を阻害する牛ウイルス性下痢について、バルク乳スクリーニング検査に基づき早期発見、摘発淘汰を進め、清浄性の維持に努めます。

3 混合飼料増産による飼料費のコスト低減への支援

- ①TMR センター施設の機能強化及び利用促進を支援します。
- ②畜産クラスター事業による飼料増産に資する機械を導入して、利用促進を支援します。
- ③飼料となる麦わら収集のため、耕種農家とのマッチングを行うとともに、稲 WCS の利用拡大を支援します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
1 戸当たりの成牛頭数（24 ヶ月 齢以上）	頭	66	R7.7 月頃 公表	69	69
生乳体細胞数 300 千個/ml 以下の 農家割合	%	83	R7.7 月頃 公表	90	90
TMR センター利用農家の成牛頭数	頭	576	R7.7 月頃 公表	1,452	1,452

利根沼田地域

＜施策の取組内容＞

1 地域農業を支える多様な担い手の確保・育成

- ①次世代の地域農業を担う新規就農者や青年農業者、若い女性農業者等の多様な担い手の確保・育成を図るとともに、環境負荷低減・資源循環型農業に取り組む農業者の育成を推進します。
- ②安定した農業経営を確立するため、認定農業者等の意欲ある担い手に対して、経営改善の助言や農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化を進めます。
- ③策定された「地域計画」に基づき、農地が有効活用され、持続的な農業が展開されるように、市町村及び農業者への助言・調整等を行います。

2 地域特性を生かしたブランド産地の育成

- ①夏季の冷涼な気象条件を生かした雨よけトマトやレタス等、夏秋野菜について、高品質安定生産に向けた取組を推進します。
- ②売れるおいしい米づくりの取組やブランド米の振興及び環境負荷低減・資源循環型農業の推進について、市町村、JA 及び米生産組織と連携し、ブランド産地の育成を図ります。
- ③こんにゃく生産者の経営安定を図るため、トウキやほうれん草などの複合作物の導入及び有機栽培の取組を市町村、JA 及びこんにゃく生産団体等と連携し推進します。
- ④いちご新品種の導入を推進するため、県全域に配布されるウイルスフリー苗の健苗生産について、技術的な助言等を行います。
- ⑤畜産経営の収益性向上に向けて、国産粗飼料の有効活用と堆肥の利用促進を図ります。

3 観光農業と6次産業化の推進

- ①農産物の輸出促進やりんご等の新品種導入によるブランド力強化を図るとともに、市町村、JA 及び観光団体等と連携し、観光農業の魅力を発信します。
- ②農業者、農産物加工組織及び農村女性起業等による地域農産物を活用した新たな加工品の開発及び地域特産品の拡充等により、地産地消や6次産業化を推進します。

4 安全・安心な農業生産の推進

- ①将来にわたり持続可能な農業を実現するために、地域の特性に応じた環境負荷低減・資源循環型農業の取組を市町村等の関係機関と連携して推進します。
- ②みなかみ町の策定した「有機農業実施計画（オーガニックビレッジ宣言）」が着実に進められるように、みなかみ町に対して「みなかみスタイルの構築」「実証ほ場の設置」「研修会の開催」への協力や助言「栽培マニュアル」などの作成を行います。
- ③効率的かつ省力的な農産物の安定生産に向けて、スマート農業やGAPの導入・普及を推進します。
- ④飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、特定家畜伝染病の発生等に備え、防疫演習の実施並びに市町村や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。
- ⑤増加する気象災害に対応した安定生産技術の実証・普及を行います。

5 農地の有効利用と農業生産基盤の保全・整備

- ①農業生産基盤整備事業と農地中間管理事業が連携し、担い手が参入できる環境を整え、担い手の育成と遊休農地の発生防止に取り組みます。
- ②地域コミュニティによる農村機能の維持や遊休農地発生抑制、農業水利施設の長寿命化を推進するとともに、国庫補助事業を活用した農業用重点ため池等の防災・減災対策に取り組みます。
- ③野生鳥獣による農作物被害を軽減するため、侵入防止柵の整備や地域ぐるみの被害防止活動を市町村等の関係者と連携して実施するとともに、研修への参加促進及び補助事業の積極的な活用などについて、情報共有を図ります。

A トマト・レタスを核とした競争力の高い野菜産地の育成

<施策の取組方向>

利根沼田地域は、中山間地から準高冷地に立地する生産基盤を生かした野菜生産が行われています。特に、雨よけトマト、レタスの大規模栽培が行われており、品質が高いことから市場からの信頼も厚い産地となっています。また、輸出促進による販路拡大等、販売チャネルの多角化の取組も始まっています。

しかしながら、生産者の高齢化、生産者間の技術格差、気象災害、生理障害や病害虫の発生等の課題が多いことから、競争力の高い野菜産地を目指して課題解決を図るとともに、消費者に選ばれ続ける野菜産地を育成します。

<施策の取組内容>

1 生産基盤強化へ向けた園芸施設の導入支援

- ② 市町村、JA と連携し、情報を共有するとともに、今後の推進方向などを協議します。
- ② 「野菜王国ぐんま」総合対策及び「農業経営力向上事業」等により、雨よけ施設等の導入を推進します。

2 省力化に向けた機械・装置等の導入支援

- ① 各種事業を活用し、農作業の省力化のための機械、養液土耕システム（自動かん水・施肥装置）等の導入を推進します。

3 新規栽培者の定着支援、省力化技術の普及と向上支援

- ① トマト産地の維持を図るため、受入体制の整備を図るなど新規栽培者の確保と早期定着を推進します。
- ② トマト・レタスの若手栽培者に対して、研修会や交流会等の機会を設けるなど資質向上と仲間づくりの促進を図るとともに、産地の次期リーダーとなる人材を育成します。
- ③ トマトの生産拡大を図るため養液土耕栽培システムなどによるスマート農業技術の導入を進め、意欲ある担い手を中心に研修会などを実施し、利用技術の向上を図ります。

4 高品質安定生産に向けた栽培技術の普及促進

- ① トマト生理障害果（軟化玉、裂果、黄変果）発生抑制技術及び秋期以降の小玉化対策の技術確立し、果実品質の向上を図ります。併せて、気象変動に対応してトマトの高温対策に取り組みます。
- ② レタス土壌病害（根腐病、黒根病）の発生を抑制するため、品質及び生産性に優れた有望性の高い品種の導入に向けて生産者と関係者が一体となって取り組みます。

5 スマート農業等の新技術や GAP 手法を用いた栽培管理の導入支援

- ① タブレットを活用してレタス土壌病害の発病ほ場地図を作成し、関係機関との情報共有を図り蔓延防止に取り組みます。
- ② トマトの栽培管理の省力化を図るため、養液土耕栽培システムなどによるスマート農業技術の導入を進めます。
- ③ レタスでは生産組織等の団体による第三者認証取得及び継続のための支援を行うとともに、トマトでは GAP チェックリストを活用してトマトセンター出荷者の個別経営改善を進めます。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
トマト販売出荷量（JA 利根沼田）	千ケース	1,630	1,754	1,700	1,700
レタス販売出荷量（JA 利根沼田）	千ケース	2,376	2,660	2,500	2,500

B 片品村牛の平地区における農地集積促進対策

＜施策の取組方向＞

生産者の高齢化の進行に加えて、条件不利農地が多いことから、牛の平地区における農地約 15ha のうち、約 9 割が遊休農地化しています。

そこで、関係機関で形成された官民共創コミュニティにより、農業基盤整備による優良農地と農業用水の確保、農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化、トマトや白小豆等の導入を行い、地域農業を支える担い手を育成し、中山間地域の農業振興を図ります。

＜施策の取組内容＞

1 農業用水整備と区画整理による優良農地の確保と遊休農地の解消

- ①令和 5 年度は、第 2 工区の残った区画整理工事の実施のほか、区域内への導水管路工事の一部を行った。また、完了した第 2 区の一時利用地の指定を行いました。
- ②令和 6 年度は、区域内への導水管路工事、ファームポンド（調整池）工事、第 2 工区の補完工事を行いました。
- ③令和 7 年度は、第 3 工区の区画整理工事、地区外道路の舗装工事、獣害防止柵工事に着手します。また、来年度の換地処分登記に向けた確定測量を実施します。

2 担い手への農地集積・集約化の推進

- ①令和 5 年度は、必要に応じて営農委員会等で制度資金や補助事業等の説明を行い、農地の効率的活用が行えるようにしました。
- ②令和 6 年度は、担い手による農地の有効活用が図られるよう、各種補助事業の導入について、関係機関と連携して検討を行いました。
- ③令和 7 年度は、関係機関と連携し、地域計画に沿った担い手への農地集積・集約化を進め、必要に応じ、各種補助事業の導入について検討します。

3 地域農業を支える担い手や新規就農者の確保・育成

- ①令和 5 年度は、新規就農者に対して、新規就農相談及び営農委員会での検討を進め、新規就農計画の策定を支援しました。また、本事業を契機に認定農業者となった農業者に対して、営農委員会を通じてハウス拡大方針等について計画的な支援を行いました。
- ②令和 6 年度は、白小豆の安定生産と JGAP の認証を継続するための支援を行いました。また、新規就農予定者に対し就農相談会を実施し、令和 7 年度の営農開始へ向け準備を進めるとともに、環境負荷低減を図る取組を推進するため、関係情報の共有を図りました。
- ③令和 7 年度は、第 3 工区まですべて生産基盤整備が完了し、トマトや白小豆等計画的な作付け体系により栽培を開始します。各ほ場の土壌分析の実施や栽培技術指導、生育状況確認など支援を行います。また、新規就農者及び新規栽培者に対して地域生産者との交流会や研修会等通じて栽培基本技術の習得並びに仲間づくりに積極的に取り組みます。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
牛の平地区における担い手への農地集積面積	ha	0	10.9	13.8	14.6
牛の平地区における担い手数	人	1	7	8	7

＜施策の取組内容＞

1 担い手確保・育成と生産基盤の保全・強化

- ①地方移住希望者等をはじめとする多様な担い手の確保・育成に向けて、関係機関との連携により、就農受入体制を強化します。
- ②認定新規就農者や認定農業者に関する各種制度等を活用し、担い手に応じたきめ細やかな経営支援に取り組みます。
- ③市町による地域計画の実現に向けた取組を支援するとともに、農業生産基盤の整備により、担い手への農地集積・集約化を進めます。

2 地域特性を生かした土地利用型農業の推進

- ①米麦の生産性と品質向上を図るとともに、生産基盤の条件や実需者のニーズ等を踏まえ、加工用米・飼料イネ等への転換と生産性向上の取組を支援します。
- ②自給飼料の品質向上と安定供給を図るため、生産者組織等の活動を支援します。

3 葉菜・果菜類の産地競争力の強化

- ①産地に適した施設野菜と米麦との複合経営の確立に向けて、環境制御技術等の確立・普及を推進し、産地の維持・発展を図ります。
- ②夏秋なす産地の更なる発展に向けて、栽培技術の普及・高位平準化を図るとともに、新規栽培者の定着を支援します。
- ③安全・安心な農畜産物生産を進めるため、生産履歴記帳と GAP への取組を支援します。

4 花き・果樹産地の維持・発展とブランドの確立

- ①省力化・高品質栽培技術の導入、担い手の確保・育成を進め、花き・果樹産地の維持・発展とブランド化を図ります。

5 農業・農村環境の維持と多面的機能の保全

- ①野生鳥獣への効果的な被害対策を効率的に進めるため、官民共創による地域と関係機関が一体となった取組を推進します。
- ②飼養衛生管理基準の遵守徹底について畜産農家へ継続的に指導するとともに、市町や畜産関係機関と連携した防疫体制を強化します。
- ③農業・農村の有する多面的機能を維持・発揮するため、農村協働力（地域の絆）による農地や水路等の維持・保全に向けた取組を支援します。
- ④安全・安心な農村づくりに向けて、ため池等の農業用水利施設における防災・減災対策に取り組みます。

6 環境負荷低減・資源循環型農業への転換・推進

- ①有機農業等の環境負荷低減・資源循環型農業への転換を推進するため、生産者に対する専門技術や経営等の支援、栽培方法に配慮した基盤整備等を実施します。
- ②オーガニックマルシェ等の販売促進活動を行い、消費者等への理解促進と消費拡大を図ります。

A ニューノーマルに対応した加工業務用野菜産地化の推進

<施策の取組方向>

コロナ禍での食生活の変化等による中食・内食の増加に伴い、加工・業務用野菜の需要が拡大しています。

県内でも多くの食品産業が集積する東部地域においては、農地を大区画化・汎用化する生産基盤整備とあわせて、地元食品製造業と連携した加工・業務用野菜の生産が急速に広がっています。

そこで、加工・業務用野菜の産地化に向けて、生産から販売までの一貫した支援を強化し、省力・効率的な生産技術等の導入を推進することで、収益性の向上や米麦との複合経営化を推進します。

<施策の取組内容>

1 担い手への農地集積・集約化の推進

- ①市町による地域計画の実現に向けた取組を支援します。
- ②地域計画実現の手段として有効な機構集積協力金の活用を市町に促します。

2 加工業務用野菜（キャベツ、レタス等）の生産安定や規模拡大

- ①栽培講習会や現地研修会の開催、実証ほの設置により、栽培技術の向上と環境負荷低減・資源循環型農業への転換、生産規模の拡大を図ります。
- ②冬春キャベツでは凍霜害に強い品種を選定するため、実証ほを設置します。
- ③農地の高度利用を図るため、キャベツ後作にレタスまたはトウモロコシ、レタス後作にキャベツまたはトウモロコシを作付し、輪作を推進します。また、新規輪作作物として緑肥の利用を推進します。

3 高収益作物の導入・拡大に対応したほ場整備の推進

- ①農用地区画の拡大、水田の汎用化及び畑地化を図り高収益作物の導入を推進するため、野辺地区で 20ha のほ場整備事業（区画整理工）を実施します。

4 スマート農業等の活用による省力・低コスト化と品質向上

- ①省力化及び作業効率向上を目指し、新型三兼ライムソワー及び直進アシスト機能付きトラクター（GS トラクター）の導入検討を行います。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
担い手への農地集積率	%	55.5	R7.5 月頃 公表	66	66
契約栽培面積	ha	72	99	111	111
20a 以上の区画整理整備済み耕地 面積	ha	2,936	R7.5 月頃 公表	3,100	3,100

B 地域資源を生かした中山間地域の振興

＜施策の取組方向＞

中山間地域は平坦地と比較して不利な営農条件下にあります。桐生・みどり地区では、酒米栽培を通じた遊休農地の解消や農商工連携による日本酒づくり等の官民共創による取組が行われています。

そこで、中山間地域の農業・農村を活性化するため、新規作物導入による遊休農地の解消、商工業・観光・福祉等との連携による地域資源を生かした新たな特産品づくり、地域内外からの人材受入等の取組を支援します。

＜施策の取組内容＞

1 遊休農地対策として地域特性を生かした新規作物の導入

- ①遊休農地解消重点地域を設定し、遊休農地再生利用事業（県単事業）の活用を2市に促します。
- ②地域特性に合った新たな作物・品種の導入に向け、検討会や栽培試験を行います。
- ③新規導入作物の定着を図るため、研修会や個別指導を通じて栽培技術の向上を図ります。

2 地域特産物を活用した加工品の開発

- ①遊休農地対策として生産された農作物や加工品が地域の活性化に結びつくよう、官民共創による生産、加工、販売活動に取り組みます。
- ②地域特産物や新規導入農産物を原料とした加工品の開発や商品化を支援します。

3 官民共創による野生鳥獣被害対策の推進

- ①各市に設置されている実施隊に対して捕獲推進を図るとともに、県産ジビエの利活用に向けた取組を支援します。

4 農村協働力（地域の絆）の深化による農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮

- ①地域住民との協働による地域資源の保全管理活動2地区 59ha を支援します。

目標指標	単位	R1 年 基準年度	R6 年度	R7 年度	R7 年 目標年度
			実績	計画	
遊休農地解消面積	ha	2.9	R7.4 月頃 公表	5.9	5.9
新規作物導入数（累計）	作物	6	8	9	9
農産加工品創出数（累計）	品目	4	12	12	7
野生鳥獣による農作物被害額	千円	13,591	R7.8 月頃 公表	8,430	8,430